



Corporate Social Responsibility

REPORT **2006**



エスベックの概要	1
トップメッセージ	2
Gカンパニープラン	4
カンパニー インフォメーション	6

経営・マネジメント

1. 良き社会の一員として、エスベックが誓うもの	9
2. ステークホルダーから信頼されるために	10
コーポレートガバナンス	10
リスクマネジメント	10
3. 持続的成長・発展に向けて	11
経営ビジョン・計画	11
2006年度 重要戦略会議体・重要委員会	11
トップコミュニケーション	11

社会的側面

1. 社会に役立つエスベック	13
技術の進歩・産業の発展を支えるエスベックの環境試験器	13
緑化・自然再生	13
2. 従業員への取り組み	14
人事方針	14
人材開発（教育プログラム）	14
人事制度	14
定年退職者の再雇用	15
障害者の雇用	15
育児への配慮	15
女性の管理職登用	15
労使関係	15
従業員満足度調査の実施	15
3. 株主さまへの取り組み	16
基本方針「IRポリシー」	16
株主・投資家さまとのコミュニケーション	16
株主さまとともに	17
4. お客さまへの取り組み	18
製品・サービスの品質保証	18
サポート体制	19
顧客満足度向上に向けて	20
5. 取引先さまへの取り組み	21
基本方針	21
取引先さまとのよりよい関係を目指して	21
6. 快適な職場環境づくり	22
安全衛生管理	22
3S（整理・整頓・清掃）の推進	22
7. 社会貢献活動	23

環境的側面

地球環境を見据えた第三次環境中期計画を策定	25
1. 環境マネジメントシステム	26
エスベック全社環境基本方針	26
環境マネジメントの概念	27
ISO14001一括取得	27
環境マネジメントの体制・組織・責任	27
2. 環境パフォーマンス	28
温暖化防止への取り組み	28
資源循環への取り組み	28
製品に関する取り組み	29
化学物質の適正使用	30
消費電力の削減	31
営業での取り組み	32
サービスでの取り組み	32
物流での取り組み	33
オフィスにおける環境保全	33
外部評価	33
コミュニケーション	33
環境啓発活動	34
環境ウィーク	35
エスベックの森	35
ビオトープ	35
物質フロー	36
目標と実績（2005年度）	38
サイト別データ	39

経済的側面

エスベックグループ体制図	41
営業概況・財務ハイライト	41
業績推移	42
セグメント別売上構成比(2005年度)	42
環境会計	43
算出根拠	44
年表	45
事業所一覧	46

アンケート（挟み込み）

エスベックの概要

■会社概要 (平成18年4月1日現在)

社 名 エスベック株式会社
英 文 社 名 ESPEC CORP.
創 業 昭和22年 7月25日
設 立 昭和29年 1月13日
資 本 金 6,823百万円
従 業 員 数 1,276名(連結)、610名(単独)
U R L <http://www.espec.co.jp/>

主 な 事 業 所

本 社 大阪市北区天神橋3丁目5番6号
東 京 支 社 東京都港区港南2丁目15番1号
品川インターシティA棟12階
営 業 拠 点 仙台・さいたま・東京・名古屋
大阪・広島・福岡
工場その他事業所 福知山・宇都宮・東京・神戸

主 な 子 会 社 および関連会社

エスベックグループ(国内)

エスベックエンジニアリング株式会社
エスベック環境試験技術センター株式会社
エスベックテクノ株式会社
エスベックICF株式会社
エスベック関西株式会社
エスベック九州株式会社
エスベックミック株式会社
エスベックビジネスクリエイト株式会社

エスベックグループ(海外)

ESPEC NORTH AMERICA, INC.
ESPEC EVALUATION & TEST SYSTEMS, INC.
上海愛斯佩克環境設備有限公司
広州愛斯佩克環境儀器有限公司
愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司
愛斯佩克測試科技(上海)有限公司
ESPEC (CHINA) LTD.
ESPEC KOREA CORP.
ESPEC (MALAYSIA) SDN. BHD.

■役員 (エスベック株式会社 平成18年6月27日現在)

代表取締役社長	野 路 井 達
代表取締役	進 信 義
取締役	檜 作 榮 四 郎
取締役	佐 波 正 志
取締役	内 藤 正 久
常勤監査役	廣 信 義
監査役	吉 岡 昭 一 郎
監査役	松 村 安 之
監査役	村 瀬 一 郎
上席執行役員	中 井 良 雄
上席執行役員	福 本 博 道
上席執行役員	石 田 雅 昭
上席執行役員	三 枝 雅 貴
執行役員	水 野 浩 三
執行役員	島 田 種 雄
執行役員	石 井 邦 和
執行役員	曾 田 聖 二
執行役員	久 保 田 靖 文
執行役員	一 色 直 樹
執行役員	山 口 高 司
執行役員	桶 谷 馨

注) 1. 取締役 佐波正志氏および内藤正久氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 松村安之氏および村瀬一郎氏は、社外監査役であります。



の じ い すすむ
代表取締役社長 野路井 達

野路井・達

エスベックは創業時からずっと「良き社会の一員」として歩んできました

エスベックの創業者田葉井五郎は「企業は社会の公器である」として創業7年目に株式会社に改組。経営に私欲を挟まず、「マイカンパニーではなくユアカンパニーでなければならない」という姿勢を貫き、良き社会の一員として社会に貢献するという、エスベックのあるべき姿を早くから示しました。

また、当社は環境問題に対しても、まだ小さな町工場の頃から取り組みを始めていました。昭和40年代、環境に負荷をかける製品のメッキや塗装をなくすため、ステンレス鋼板で内外装を構成した製品を開発。さらに、当時ではまだ数少ない環境公害自主規制制定の京都府福知山市の長田野工業団地を選択し、福知山工場を新設いたしました。

このような創業時からの重要な価値観を私たちは50数年を経た今も色あせることなく継承するとともに、一層の進化を目指して、さまざまな取り組みを推進しております。

「Good (グッド)」で「Global (グローバル)」、 「Green (グリーン)」な企業 「Gカンパニー」の実現を目指します

2006年4月、当社は、5カ年の経営革新計画として「エスベックGカンパニープラン(2006～2010年度)」を策定いたしました。この「Gカンパニー」の「G」は、「Good (グッド)」、「Global (グローバル)」、「Green (グリーン)」の頭文字であり、グローバルに事業を展開し、世界中のステークホルダーの期待に応える「価値交換性の高い世界優良企業」、そして、いかに環境に役立つかという高い視点で地球環境の保護・保全・改善に貢献する「環境先進企業」という、当社が目指す企業像を表しています。

連結業績目標としては、2005年度の実績の2倍以上となる2010年度「売上高800億円以上」、「営業利益80億円以上」を掲げております。「エスベックGカンパニープラン」ではこの高い目標達成にむけて、着実に

業績向上に取り組んでまいりますが、「経済的成長・発展」のみを追い求めるのではなく、「社会的公正・貢献」と「環境保護・保全」、これら3つのバランスを取りながら経営を推進してまいります。これにより、エスベックを社会になくてはならない「Good(グッド)」で、「Global(グローバル)」、「Green(グリーン)」な企業「Gカンパニー」に育てていきたいと考えております。

企業発展の原動力は「人」。社員一人ひとりが夢を持ち輝く企業へ

私は、企業発展の原動力は「人」で決まると考えています。すべてのステークホルダーに満足を提供し、社会に貢献する「グッドカンパニー」であるためには、そこで働く社員一人ひとりが夢を持ち輝いていなければなりません。

「エスベックGカンパニープラン」においても、「人材開発」を重点戦略のひとつと位置づけ、社員のキャリアビジョンを実現する人材開発支援プログラムの構築や、教育システムの充実、福利厚生の実施などさまざまな施策に取り組んでまいります。

社員がゆとりを持ち、幸せに資する経営をすすめると同時に、意欲ある社員の能力を最大限に引き出し「プロフェッショナル人材」を育てていくこと。このことが社員満足を向上させ、さらには、社員一人ひとりが高付加価値を創造することで、お客さまをはじめとするステークホルダーのみなさまに最高レベルのご満足を提供できるのだと考えております。

時代の先を行く「グリーンカンパニー」 エスベックは地球全体の環境改善に 取り組みます

エスベックは環境保護・保全・改善を企業経営の最重要課題のひとつと位置づけ、継続して「環境マネジメントの質」の向上に努めております。これまでも「ISO 14001」認証のグループ一括取得や、省エネ製品の開発、グリーン調達などさまざまな環境管理活動に積極

的に取り組んでまいりました。

その結果、日本工業新聞社主催の地球環境大賞「日本工業新聞社賞」や日本環境経営大賞表彰委員会・三重県主催の日本環境経営大賞「環境経営優秀賞」の受賞など社外から数々の高い評価をいただいております。そして2005年9月、当社は、一企業としての活動範囲にとどまらず、温暖化対策・資源循環・有害物質汚染防止・社会貢献といった地球全体の環境改善を目的とした第三次環境中期計画を新たに策定いたしました。目標値には、京都議定書における「日本のCO₂(二酸化炭素)排出削減目標値6%(1990年度比)」を上回る「10%削減」という高い目標を掲げております。今後も事業拡大を目指している当社にとって、この目標達成は決して容易ではありませんが、風力発電やソーラーといった自然エネルギーの活用、森づくり・水辺づくりなどを推進することで、CO₂を削減し、地球環境の保護・保全・改善に貢献していきたいと考えています。

ステークホルダーの期待に応えるために

昨今の目まぐるしい環境変化のうねりのなかで、企業が社会的使命を果たし、健全な事業活動を行っていくためには、社内外のあらゆる状況に対して、迅速かつ柔軟に対応できるコーポレートガバナンス(企業統治)体制の確立が不可欠です。当社は、行動憲章の制定や相談通報窓口の設置などにより、コンプライアンス・内部統制・リスクマネジメントの基盤をより強固なものにするとともに、経営監視機能を強化することで、一層社会性・透明性・効率性の高い経営体制の構築に努めてまいります。

この度発行いたしました「ESPEC CSR REPORT 2006」を通じて、当社の社会や環境に対する取り組みを、一人でも多くの方々にご理解いただき、ご意見・評価を頂戴することで、これからのエスベックのCSR活動に活かしていきたいと考えています。

今後も当社は、みなさまから信頼される「Gカンパニー」の実現を目指し、取り組んでまいります。

より一層のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

(グッド) (グローバル) (グリーン)
「Good」で「Global」、「Green」な企業
「Gカンパニー」の実現に向けて



エスベックは、2006年度から2010年度までを実施期間とした経営革新計画「エスベックGカンパニープラン」を策定しました。「エスベックGカンパニープラン」の「G」は、「Good (グッド)」、「Global (グローバル)」、「Green (グリーン)」の頭文字であり、それぞれの「G」が、下記に示す通り、「エスベックが目指す企業像・あるべき姿」を表しています。

G グッドカンパニー

1. 全ての顧客、株主、取引先の皆さまに心から満足していただける企業
2. 独創的で先進的な開発力と確かなモノづくりで顧客に応える企業
3. 社員満足が向上し、良き企業活動を通じて、社会に貢献する企業

G グローバルカンパニー

1. グローバルカスタマーの新しい期待を生む企業
2. 世界全体を活動領域とし、世界のステークホルダーと共に発展する企業
3. エスベックの事業所が立地する国や地域の文化を尊重する企業

G グリーンカンパニー

1. 技術の革新を通じて地球環境に優しいサービスを提供する企業
2. 常に環境を想う心を持つ社員を育てる企業
3. 環境役立つ活動を積極的に推進する企業

エスベックは、「エスベックGカンパニープラン」において、「徹底したお客さま視点による価値創造」という考えのもと、革新的技術の創造による良質な製品・サービスの提供に努めるとともに、人を活かし人が育つ「社員重視の経営」を基軸にプロフェッショナルな人材の開発を推進してまいります。そして、遵法と透明性の高い経営体制のもと、社員、お客さま、株主さま、そして取引先さまのみなさまにとって良い経営を進め、グローバルに事業を展開し、世界のお客さまの期待に応える「価値交換性の高い世界優良企業」、そして、いかに環境に役立つかという高い視点で地球環境の保護・改善に貢献する「環境先進企業」の実現を目指してまいります。

当計画では、革新的技術の創造により、業績目標として、2005年度実績の2倍以上となる2010年度「売上高800億円以上」「営業利益80億円以上（営業利益率10%以上）」を目指してまいります。

そして、この高い目標達成に向け、企業体質を転換し、成長のための基盤づくりを行う「2つの改革」と未来を切り開く成長戦略「4つの開発」を強力に推し進めています。

未来を切り開く成長戦略

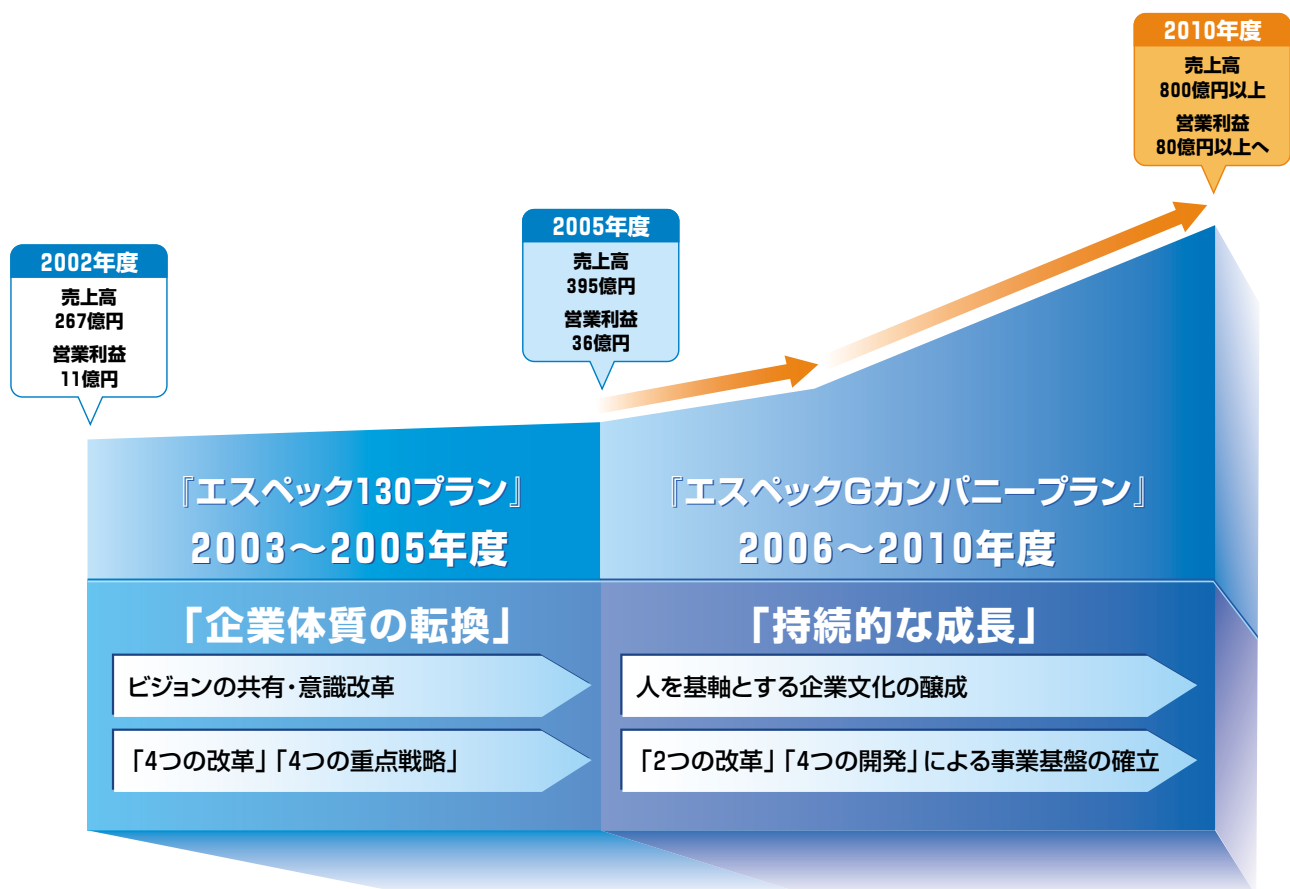
4つの開発

技術開発	未来を担う要素技術を開発し、新製品売上高比率30%以上を実現
人材開発	従業員満足の向上と高付加価値創造による顧客満足の向上
事業開発	成長を牽引する新しい事業モデルの開発と創造
市場開発	新規・成長市場への積極的展開によるグローバルシェアの拡大

企業体質を転換し、成長のための基盤づくりを行う

2つの改革

モノづくり改革	徹底した「品質向上」「コスト削減」「納期短縮」による事業収益の改善
オペレーション改革	全社生産性2倍（2001年度比）の実現

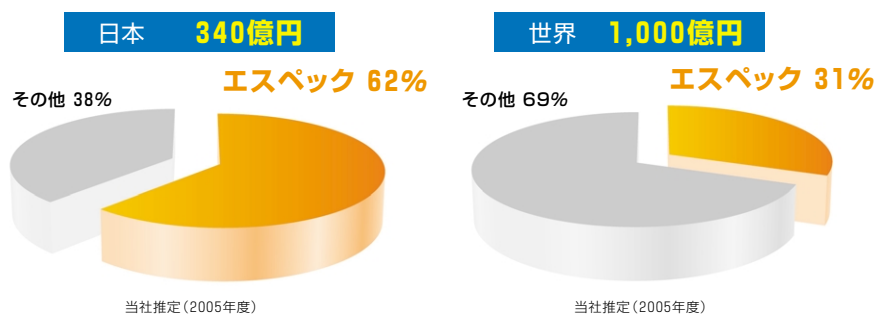


Company Information

1954年に設立されたエスベック株式会社は、1961年、日本で初めて環境試験器の開発に成功。以来、新しいタイプの環境試験器や関連技術の研究開発活動を積み重ね、現在、環境試験市場において、国内60%、世界30%のシェア（2005年度）を誇る世界No.1メーカーです。

エスベックは、この環境試験で培った環境創造技術やノウハウを応用し、液晶や半導体などの新たな市場に事業を展開するなど、幅広いフィールドで活躍しています。

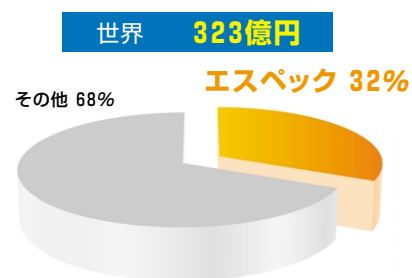
環境試験市場



※「環境試験市場」は当社セグメント「環境試験器事業」「アフターサービス事業」「受託試験事業」を対象としております。

ディスプレイデバイス装置市場

（LCD製造装置・熱処理装置・焼成炉市場）



エスベックの製品・サービス

環境試験器

製品がさまざまな環境下で高い性能と品質を確保するためには、温度や湿度、圧力などの環境因子による影響を評価する環境試験が必要です。エスベックは、高精度な温湿度制御技術により、あらゆる環境を人工的に再現する環境試験器を提供しています。当社の環境試験器は、大手エレクトロニクスメーカーを中心に、研究開発から信頼性評価、生産ラインなどのさまざまな工程において、幅広くご利用いただいています。



恒温（恒湿）器 プラチナスKシリーズ



恒温（恒湿）室 ビルドインチャンバー



小型環境試験器



冷熱衝撃装置 TSD-100



急速温度変化チャンバー TCC-150W



恒温器 パーフェクトオープン

FPD関連装置

液晶テレビや携帯電話などのアプリケーションの広がりによって、FPD（フラットパネルディスプレイ）の需要は高まっています。エスベックは、このFPD生産ラインにおける熱処理装置の製造・販売を行っており、現在、世界シェア約30%とトップシェアを有しています。熱処理装置には、高いクリーン度、高精度な温度分布、正確なガラス搬送技術が求められておりますが、エスベックは、これらを実現する高度な技術を装置に集約し、ご提供しています。



自動クリーンキュアシステム



LCD対応枚葉式縦型クリーンオープン
HSCシリーズ

半導体関連機器

エレクトロニクス製品の高性能化・多機能化により、搭載される半導体は複雑化・高密度化の一途をたどっています。エスベックは、これらの半導体の生産ラインで使用される半導体洗浄装置やバーンインチャンバー（高温下で半導体に電氣的ストレスを与え、良品・不良品を選別するための装置）などの生産・検査装置を提供しており、半導体の信頼性向上に貢献しています。



ダイナミック／モニタードバーンインシステム



AGV自動バーンインシステム

計測システム

エレクトロニクス製品にはさまざまな電子部品が使用されており、その部品一つひとつの信頼性が製品全体の品質に影響を及ぼします。エスベックは、こうした電子部品の信頼性試験における評価データを収集・分析する計測システムを提供しており、豊富な製品ラインナップにより、お客さまの幅広いご要求にお応えしています。



イオンマイグレーション評価システム



プリント基板・はんだ導体抵抗評価システム



エレクトロマイグレーション
評価システム

環境試験サポートサービス

製品のアフターサービスや、お客さまに代わって試験を行う受託試験、製品のレンタルなど、エスベックは、環境試験器の製造・販売のみにとどまらず、お客さまの環境試験へのさまざまなご要求に対し、トータルソリューションでお応えしています。



受託試験



トレーサビリティ・サービス

経営・マネジメント

1. 良き社会の一員として、エスベックが誓うもの	9
2. ステークホルダーから信頼されるために	10
コーポレートガバナンス	10
リスクマネジメント	10
3. 持続的成長・発展に向けて	11
経営ビジョン・計画	11
2006年度 重要戦略会議体・重要委員会	11
トップコミュニケーション	11



エスベック 環境ポスターコンテスト

優秀賞

タイトル「自然の保護」
四方浩昭 エスベック株式会社

1. 良き社会の一員として、エスベックが誓うもの

1999年12月、エスベックは、創業当時から脈々と伝わるエスベックの価値観を体系的にまとめ、あらゆる意思決定や活動のよりどころとなる「THE ESPEC MIND」を制定しました。

この「THE ESPEC MIND」の思想の中心は、エスベックが「社会に価値を提供し続ける存在」でなければならないというものであり、その中の「宣言」では、経営において私たち全員が尊重すべき事柄として、「遵法」、「文化」、「人権」、「環境」、「啓発」の5つを挙げ、その実践を誓うとともに、エスベックが「良き社会の一員」として存在することを宣言しています。

そして、2006年4月、この「THE ESPEC MIND」の思想をベースに、エスベックに所属するすべての役員・従業員に適用する企業行動原則と行動基準を具体的に明記した「エスベック行動憲章・行動規範」を新たに制定しました。本行動憲章・行動規範をエスベックに所属する一人ひとりが遵守し、積極的に実践することで、CSRのさらなる向上を図っていきたいと考えています。



「THE ESPEC MIND」

エスベック行動憲章

社会貢献活動の実践

良き社会の一員として、より健全で豊かな社会の実現に向け、積極的に社会貢献活動を行います。

法令・企業倫理の遵守

一人ひとりが、事業を展開する国や地域の法令、社会規範、企業倫理を遵守し、誠実に業務を行うよう努めます。

文化の尊重

事業を展開する国や地域の文化、社会規範を尊重するとともに、企業文化の良質化に継続的に取り組みます。

人権の尊重

基本的人権を尊重し、社内外において、性別・年齢・国籍・人種・民俗・宗教・信条・社会的身分・障害等による差別的取扱、言動は一切行いません。

地球環境保護・保全への貢献

環境保護・保全は企業経営の最重要課題のひとつであると認識し、あらゆる国や地域において、自主的かつ積極的に環境保全活動に取り組みます。

お客さまの信頼と満足の追求

すべての企業活動において、お客さまの視点に立った活動を行い、お客さまの信頼と満足を追求します。

職場環境の維持・向上

労働安全衛生に関する法令や社内規定等を遵守し、従業員の安全・健康に配慮した快適で働きやすい職場環境の維持・向上に努めます。

適切な情報の開示

あらゆるステークホルダーのみなさまに対して、正確な企業情報を誠実、公平かつタイムリーに提供し、実直なアカウンタビリティを実践します。

エスベック行動憲章・行動規範の啓発・教育

あらゆる機会を創出して、エスベック行動憲章・行動規範の啓発と教育を行い、社内への周知徹底を図ります。

2. ステークホルダーから信頼されるために

■エスベックとステークホルダー



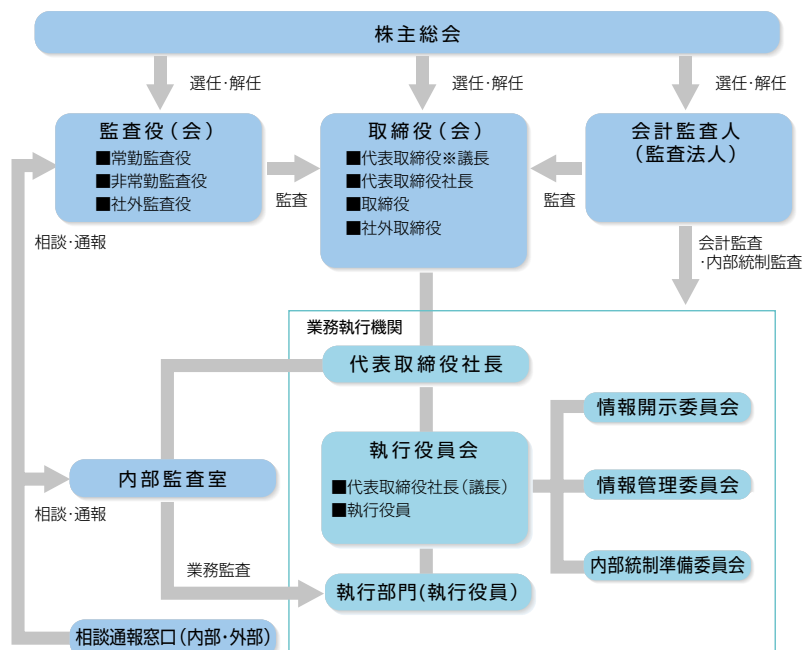
コーポレートガバナンス

健全な事業活動を行い、社会に貢献し続けるためには、あらゆるリスクに対して迅速かつ柔軟に対応できるコーポレートガバナンス（企業統治）体制の確立が不可欠です。

エスベックでは業務執行機能と経営監視機能の明確な分離を図り、権限と責任の明確化と、意思決定と実践の迅速性を高めるため、執行役員制度を導入しています。取締役会は長期的視野に立ってグループ戦略を統括し、経営の基本方針および重要な業務執行の決定と業務執行を監督する機関として位置づけています。

今後もエスベックはコーポレートガバナンスの強化に努め、コンプライアンス（法令遵守）の確保と、より社会性・透明性・効率性の高い経営体制の確立を目指していきます。

■コーポレートガバナンス体制



リスクマネジメント

2004年9月、情報セキュリティの確保と情報の有効活用を目的として情報管理委員会を発足。2005年3月には、情報管理規定として「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ管理規定」「個人情報保護規定」の制定、「情報セキュリティ委員会」の設置など管理体制を組織化しました。また、2006年4月には、不正行為等の早期発見と是正、および法令遵守体制の強化を目的に、内部通報規定を制定し、相談通報窓口を設置しました。

さらに、内部統制準備委員会も新たに設置し、内部統制の強化を図っています。

その他にも、エスベックグループの役員を対象とした、コーポレートガバナンス、コンプライアンス、およびリスクマネジメントに関する研修会を実施するなど、教育・啓発活動にも積極的に取り組んでいます。

3. 持続的成長・発展に向けて

経営ビジョン・計画

エスベックでは、長期経営ビジョン、中期計画、年度計画の3つの方針・計画を策定し、経営を行っています。

長期経営ビジョンは、将来エスプレックのあるべき姿、なりたい姿を描いたものであり、中期計画は、その長期経営ビジョンの具現化に向けた3～5カ年の経営目標および目標達成に向けた戦略・施策を具体的に示したものです。

そして、その中期計画をさらに、1年ごとに目標値に落とし込み、達成のために必要な個々の施策を示したものが年度計画です。

現在は、長期経営ビジョンとして、上場30周年を迎える2013年度のあるべき姿を描いた「エスベック10年ビジョン」、中期計画として、2006年度～2010年度の5か年を実施期間とした経営革新計画「エスベックGカンパニープラン」、そして2006年度計画を掲げ、短期から中長期と幅広い視点をもって、全社一丸となってさまざまな施策に取り組んでいます。

2006年度 重要戦略会議体・重要委員会

2006年度の経営において、重点的に取り組んでいくべき事項について、より迅速かつ確な意思決定を実現するため、下記の戦略会議と委員会を新たに創設します。これにより、経営革新計画「エスベックGカンパニープラン」達成に向けて、「改革・開発・創造活動」を一層推進します。

重要戦略会議

電子デバイス装置事業戦略会議

電子デバイス装置事業の競争力強化と事業基盤の構築

モノづくり戦略会議

品質向上と収益改善のための
モノづくり強化

技術開発戦略会議

高付加価値商品と
中核コア技術の開発

品質戦略会議

抜本的な品質改革の断行

中国戦略会議

成長市場である中国における 事業戦略の策定

営業戦略会議

新市場・新分野の開拓と展開

重要委員会

人材開発委員会

人材開発による
プロフェッショナルな人材の育成

オペレーション改革委員会

全体最適の視点による
高効率業務プロセスの構築

QMC委員会

全体小集団活動によるQCD改善
とCS・収益性貢献を推進

リスク管理委員会

リスクマネジメントの体制の構築

投資評価委員会

投資対効果の分析、
投資判断基準の設定

輸出管理委員会

輸出関係法令の遵守と輸出管理の徹底

トップコミュニケーション

ビジョンや情報の共有化、社員の意識改革を目的に、毎週社内ホームページ上にて、社長通信「すすめーる」を発行し、経営トップ自らが経営方針や課題、取り組みの進捗状況などを社員に伝えています。この取り組みは2002年4月から開始しており、約4年間で発行回数は200回を超えています。また、トップからの一方的な発信だけでなく、社長と一般社員が直接向かい合い、現場の問題などについて話し合う「社長懇談会」も随時開催しており、開催回数は100回を超え、すでに約730名の社員との懇談を終了しました。そして、ここで提案された必要な事柄については、社長通信「すすめーる」で紹介するとともに、すぐに経営活動に取り入れています。

エスベックは、経営層と社員間で活発なコミュニケーションを行い、ビジョンを共有することが大変重要だと考えており、経営層の意志を社員に浸透させるとともに、社員の意見を経営にフィードバックし、経営に活かすことで、高い信頼関係と風通しの良い社内風土の育成に努めています。



社長通信「すすめーる」



社長懇談会

社会的側面

1. 社会に役立つエスベック	13	3. 株主さまへの取り組み	16
技術の進歩・産業の発展を支えるエスベックの環境試験器	13	基本方針「IRポリシー」	16
緑化・自然再生	13	株主・投資家さまとのコミュニケーション	16
2. 従業員への取り組み	14	株主さまとともに	17
人事方針	14	4. お客さまへの取り組み	18
人材開発（教育プログラム）	14	製品・サービスの品質保証	18
人事制度	14	サポート体制	19
定年退職者の再雇用	15	顧客満足度向上に向けて	20
障害者の雇用	15	5. 取引先さまへの取り組み	21
育児への配慮	15	基本方針	21
女性の管理職登用	15	取引先さまとのよりよい関係を目指して	21
労使関係	15	6. 快適な職場環境づくり	22
従業員満足度調査の実施	15	安全衛生管理	22
		3S（整理・整頓・清掃）の推進	22
		7. 社会貢献活動	23



エスベック 環境ポスターコンテスト

佳作

タイトル「ペンギンの危機」
檀 史子 株式会社立花エレテック（取引先さま）

1. 社会に役立つエスベック

技術の進歩・産業の発展を支えるエスベックの環境試験器

携帯電話やデジタルカメラなどの電化製品、自動車や飛行機などの乗り物は、現代社会において、今や欠かさない存在となっています。これらの工業製品は、炎天下や雨、雪などの自然環境、また振動や圧力といったさまざまな環境負荷にさらされており、大きな影響を受けています。しかし、どのような環境下においても、正常に機能することが求められており、ここで重要な役割を担うのが環境試験です。

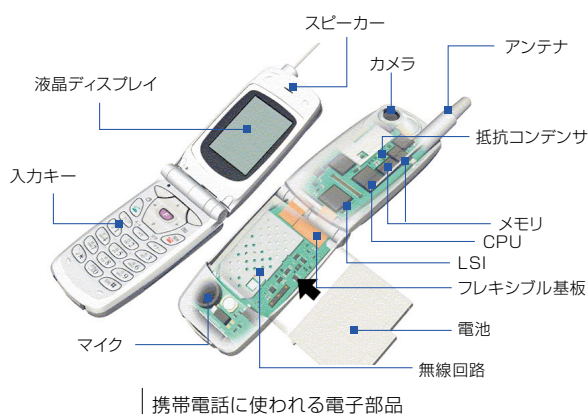
環境試験とは、これらの製品がさらされる温度や湿度、圧力、振動といった環境を人工的に再現し、製品に及ぼす影響を分析・評価することで、品質や信頼性を確認する試験です。

エスベックの「環境試験器」は、研究開発から製造・検査にいたる幅広いお客さまにご利用いただいております。社会に安全で安心してお使いいただける製品を提供する大変重要な役割を果たしています。



製品が実際に使われる環境を再現する恒温恒湿器

例えば、携帯電話では、メールやカメラ、テレビ機能が加わるなど小型化・高機能化が進んでおり、LSIや液晶ディスプレイ、CCDカメラなど数多くの最先端部品が搭載されています。環境試験はこれら電子部品の1点1点に対して行う必要があり、そのニーズは年々、高まっています。エスベックは、環境試験器を通じて、さまざまな製品の品質を支え、技術の進歩・産業の発展に大きく貢献しています。



携帯電話に使われる電子部品

緑化・自然再生

エスベックは環境試験の技術を活かし、水辺づくり・森づくりなど、環境を再生し育むさまざまな事業に取り組んでいます。自然に近い植生を早期に再生する自然環境改善、街路樹や工場緑化など都市景観に役立つ緑化、防火や土砂流出を防ぐ防災林や、それにともなう環境分析などを行っています。

■水辺づくり

水生植物を活用した水辺の自然環境復元や植生護岸の形成など、水環境の改善に取り組んでいます。

施工前



施工後



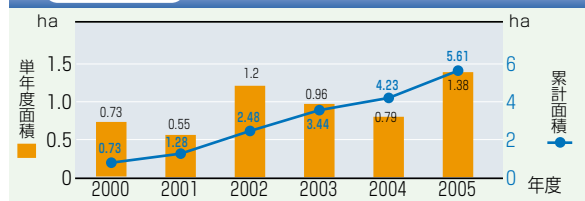
■森づくり

森づくりを通じて、地域社会とのより良い関係の構築に積極的に取り組んでいます。2005年11月6日には、イオン水戸内原ショッピングセンターにおいて植樹祭が開催されましたが、2,500人と大変多くの方々に参加いただき、当社植樹指導のもと、7,144m²の広大な面積に26,893本の苗木を植えていただきました。

森づくり



水辺づくり



イオン水戸内原店 植樹祭

2. 従業員への取り組み

人事方針

会社の盛衰は「人」で決まります。会社にとって「人」が中心であり、「人」重視の経営こそが会社発展の原動力です。社員が働いて、楽しいエキサイティングな会社でありたい。社員が主役の会社でありたい。というのが基本的な考え方です。また、経営革新計画「エスベックGカンパニープラン」において「人材開発」を重点戦略のひとつとして位置づけており、経営の視点で事業をプロデュースできる「マネジメント人材」と高度な専門能力を持つ「スペシャリスト人材」の開発・育成に取り組んでまいります。

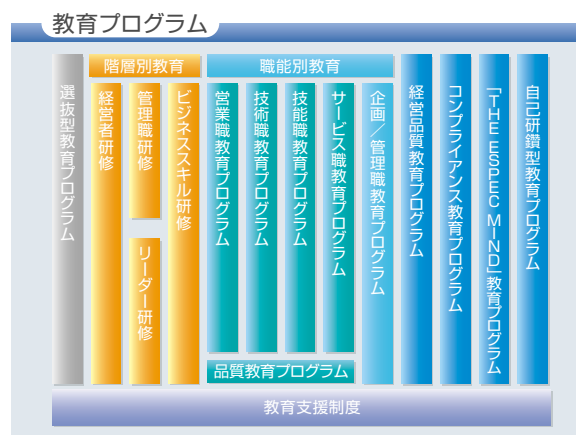
人材開発（教育プログラム）

エスベックの教育は、従業員が自らのキャリアプランを設定し、その実現に向けて主体的にスキルアップを図ることを目指しています。

そのために職位や職能において必要とされる能力を明確にし、その修得と向上を図るための教育プログラムを整備しています。

あわせて、教育費用の補助など、自己啓発に基づく教育を支援する制度の充実に努めています。

また、職種による教育機会の格差をなくすため、すべての従業員が業務を離れて教育を受ける機会が得られるよう受講目標を定めて全社的に促進を図っています。



人事制度

■若さと活力を生み出す人事制度

エスベックは、「役割・成果主義を基軸とした人事制度」および「選択と自己責任を基軸とした人事制度」を2本の柱として、役割と成果に応じたメリハリのある、かつ透明性のある処遇システムの採用により「若さ」と「活力」を創出する人事制度の構築に努めています。

チャレンジャー表彰制度

チャレンジ性の高いテーマにチームで取り組み、より大きな成果を達成したチームを表彰する制度です。

社内公募制度

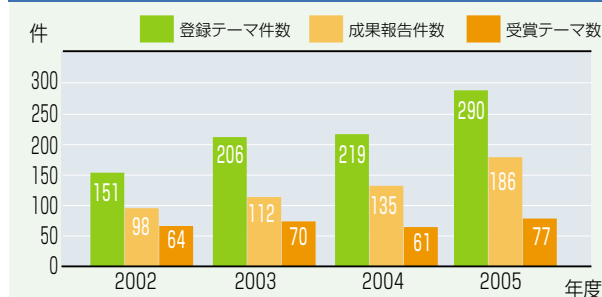
新規事業や戦略プロジェクト要員を社内で公募する制度であり、ミッションと求める人材像、応募資格を社内ホームページに公示し、参画を希望する社員を広く募集しています。

コース選択制度（勤務地限定選択制度）

家庭の事情や価値観・労働観により異動を限定的にすることを望む社員に対し、勤務地限定の選択肢を付与する制度です。

これからもグローバル化の進展や労働観の多様化・個別化へ対応し、社員一人ひとりがより働きがいを感じることでできる人事制度を目指し、さらなる改革・改善に取り組んでいきます。

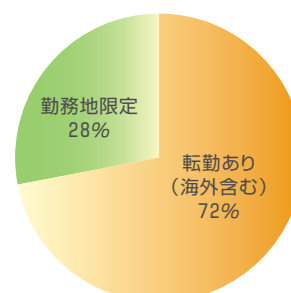
チャレンジャー表彰制度 過去の実績



社内公募制度 過去の実績

	募集人数	応募人数	登用人数
利用者数（制度実施 計5回）	39人	53人	22人

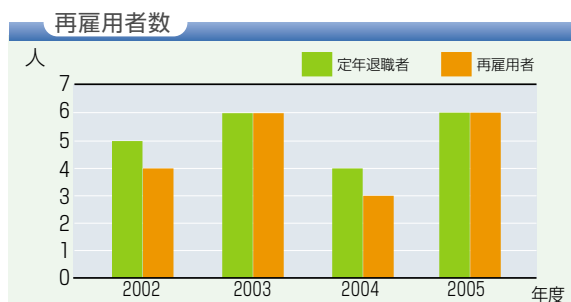
コース選択制度（勤務地限定選択制度）選択状況



2006年3月末現在

定年退職者の再雇用

エスベック固有の技術・技能を伝承していくためにも、全社員を対象とした定年退職者の再雇用制度を導入し、公的年金の支給開始年齢の引き上げに合わせ、段階的に65歳までの雇用を確保するようにしています。現在まで希望者については、ほぼ全員を再雇用しています。

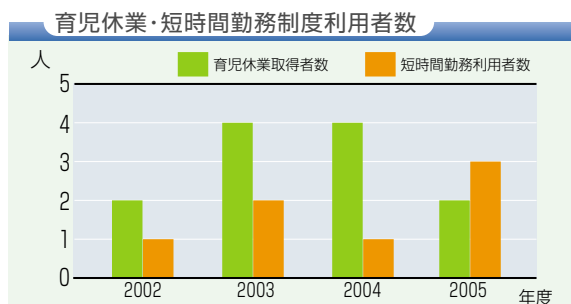


障害者の雇用

現在、7名の身体障害者を雇用し法定雇用率を満たしておりますが、出来るだけ多くの障害者の方を、その能力や適正に応じて雇用できるように、今後も継続して職場環境の改善や職務の見直しなどに取り組みます。

育児への配慮

次世代育成支援策の一環として、子供を養育する社員が職業生活と家庭生活を両立できるように、育児休業や育児短時間勤務制度の活用を推進しています。その結果として現在までに、延べ39名の女性社員が育児休業を取得し、延べ15名の女性社員が育児短時間勤務を選択しています。



女性の管理職登用

現在の管理職は男性が153名、女性が2名です。女性管理職比率は約1%ではありますが、管理職に登用する条件については、男女雇用機会均等法を遵守し、性別による格差は一切設けておりません。

女性管理職の増加が女性社員の士気向上とともに組織の活性化につながるよう、計画的な育成と登用により同比率の引き上げを図っていきます。

労使関係

エスベックとエスベック労働組合は労働協約と相互信頼に基づいた健全な労使関係を維持しており、労使対等の立場でさまざまな労使課題に取り組んでいます。その一環として、労使専門委員会を設置し、人事諸施策の内容と効果の検証、およびその深耕と水平展開を行っています。また、労使が対等な立場で情報・意見交換を行う場として、毎月「労使協議会」を開催しています。同協議会においては、会社からは経営状況を報告し、労働組合からは労働環境・条件等について社員が抱える不満や問題点を報告することで相互の課題を共有し、それぞれの立場を尊重して労使協力のもと解決を図っています。なお、この会議はコーポレートガバナンスの観点からも、労使双方の牽制の場として重要な役割を担っています。

また、会社からは社長通信「すすめーる」や社内報「HOLON.com」を定期的に発行し、組合執行部からは機関紙「こもら一ど」を適宜発行し、タイムリーな情報提供に努めています。現在の組合員は648名、組合員比率は76%となっています。

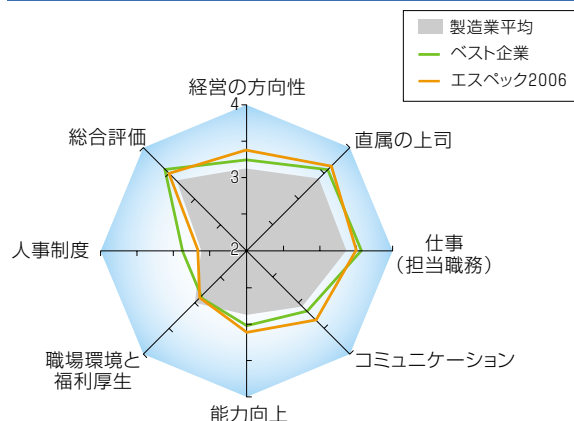
従業員満足度調査の実施

エスベックは、社員満足度の向上のための取り組みを、経営品質の向上にも生かしていくことを主目的とし、2004年度より第三者機関による従業員満足度調査実施をしております。調査結果は次のような視点から会社の施策や制度の改善に活用しています。

- ・職場環境への反映
- ・社員の教育・研修計画への反映
- ・人事制度への反映

2006年度は前年度と同様、業界平均を上回る満足度を示しましたが、さらなる納得性と満足度の向上を目指し、各事業部門での職場ミーティング開催、人材開発センターの新設などを行いました。今後も引続き社員の意見を経営活動に取り入れ、経営層と社員間での高い信頼関係と風通しの良い社内風土の醸成に努めます。

従業員満足度調査結果（業界平均との比較）



3. 株主さまへの取り組み

基本方針「IRポリシー」

エスベックは、より良き社会の一員として、エスベックのあらゆるステークホルダー（利害関係者）とのより良い関係の構築（価値交換性の向上）や社会的責任を果たすことを企業理念として掲げています。

株主・投資家さまとのコミュニケーションをより良好に行うためのIR活動におきましても、その理念を踏まえ、「IRポリシー」として明文化し、活動の規範としています。

■IR活動の目的・基本姿勢

当社のIR活動は、株主や投資家を含む当社のあらゆるステークホルダーのみならず、当社に対する理解を深めていただき、当社の企業価値を正に評価いただくことを目的としています。

そのために、業績の好不調に関わらず首尾一貫して、正確な企業情報を誠実、公平かつタイムリーにお伝えすることを基本姿勢としております。

※「IRポリシー」から抜粋

なお、「IRポリシー」はエスベックホームページ（<http://www.espec.co.jp/>）に掲載し、周知徹底を図っています。

株主・投資家さまとのコミュニケーション

■情報開示

エスベックは、会社法・証券取引法等関係法令、証券取引所の定める適時開示規則等に従って、情報開示を行っています。また、同規則に該当しない情報についても、当社を理解していただく上で有効な情報は、積極的かつ公平に情報を開示しており、このことは「IRポリシー」および証券取引所の要請に従って提出した「適時開示に係る宣誓書」でも明記しています。

エスベックはそれを順守するための社内体制の整備に努めており、2005年3月には情報開示規定を制定するとともに情報開示委員会を設置いたしました。これにより、任意開示情報も含め、より適時適切な情報開示を実施しています。

また、ホームページを積極的に活用することで、より多くの株主・投資家さまへの公平かつ迅速な情報の開示を推進しています。

■開かれた株主総会の実現に向けて～株主懇談会の開催～

エスベックは、株主総会を株主さまと直接対話のできる貴重な機会であると考えています。

近年は、より多くの株主さまにご参加いただけるよう、集中日を避けて株主総会を開催しています。また、総会終了後には、株主懇談会を実施。社長よりエスベックの事業内容や今後の施策などについて詳しくご説明させていただくとともに、株主さまとエスベック役員とで活発な意見交換を行っています。



株主懇談会

■機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会の実施

機関投資家・証券アナリストの方を対象に、決算説明会を実施しています。また、個別面談につきましても、随時実施しています。

■個人投資家向け会社説明会の実施

エスベックは、みなさまにとって、より公平で公正な企業でありたいと考えており、個人投資家さまに対しましても、会社説明会を実施しています。

2005年度は、東京において開催し、350名を超える多くの投資家さまにご参加いただきました。



個人投資家向け会社説明会

■IR資料の充実

エスベックは証券取引法等で開示が義務づけられた内容以外の情報であっても、エスベックを理解していただく上で有効な情報は、積極的に情報開示を行っています。

2005年度は株主通信のリニューアルを実施し、より分かりやすい紙面づくりを行いました。

また、CSRレポートやファクトブックの発行も開始するなど、より一層、資料の充実に努めています。

■インターネットIR

エスベックは、ホームページを投資家さまをはじめとするさまざまなステークホルダーとエスベックを結ぶ重要なツールのひとつとして位置付けて取り組んでいます。

2005年度は、エスベックホームページ内に個人投資家向けページを設置するなどさらなる利便性の向上を図る一方、携帯電話用IRサイトの開設などを通じて、インターネットIRの一層の充実に努めました。

これらの積極的な情報開示が評価され、エスベックのホームページは、大和インベスター・リレーションズ社が主催する「2006年インターネットIRサイト優秀企業賞」を受賞し、さらに日興アイ・アール社が主催する「2005年度全上場企業ホームページ実態調査」において、上場企業3,789社中49位にランクインされました。



「2006年インターネットIRサイト優秀企業賞」ロゴ



エスベックホームページ <http://www.espec.co.jp>

エスベック携帯電話用IRサイト <http://m-ir.jp/c/6859>

QRコード
カメラ付携帯電話のバーコードリーダーで読み取ると、携帯電話用IRサイトにアクセスできます。



■株主・投資家さまのご意見をフィードバック

エスベックは、株主通信の送付時に株主さまを対象としたアンケートを実施しており、会社説明会の開催時などでも投資家さまのご意見を収集しています。

株主通信のアンケートについては、中間株主通信において詳細を報告しています。

また、こうした株主・投資家さまのエスベックに対する評価やご意見をフィードバックすることで、自らの課題を認識し、今後のIR活動、経営の質の向上に役立てています。

株主さまとともに

■発行体格付け「BBB」に格上げ

エスベックは、持続的な企業価値の向上が株主利益向上の基本であると考えています。

2005年8月、株式会社格付投資情報センター（R&I）によるエスベックの格付けが、従来の「BBB-」から「BBB」へと1ランク上げられました。この度の格上げは、経営革新計画「ESPEC130プラン」で推進してきました事業展開および収益力の改善等が高く評価され、当社の信用力の向上につながったものと理解しています。エスベックは、今後もさらなる企業価値の向上に向け、取り組みます。

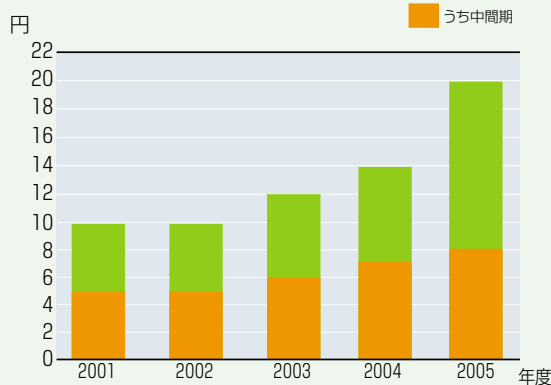
■連結当期利益の20%前後を配当し利益還元

エスベックは、株主さまへの利益還元を経営の重要課題であると認識しています。

配当金については、各年度の連結業績を重視し、連結配当性向20%を目安に配当の決定を行います。また、万が一業績が悪化する場合においても一定水準の配当を実施します。

2005年度の年間配当金は、前年度に比べ6円増配の1株あたり20円で、連結配当性向は19.8%となりました。

1株あたり配当額の推移



※2003年度の1株配当金12円は、記念配当（株式上場20周年記念）2円を含む

4. お客様への取り組み

エスベックは、「エスベック行動憲章」において、お客様の信頼と満足の追求を掲げ、すべての企業活動においてお客様の視点に立って行っています。「エスベック行動規範」においても、信頼性の高いモノづくりを掲げ、お客様への良質な製品・サービスの提供に取り組んでいます。

製品・サービスの品質保証

■品質方針

先端技術の開発競争やPL法への対応など、企業にとって「品質保証」というテーマはますます重要性を増しています。エスベックは、信頼性試験を行うための装置「環境試験器」を提供しており、エスベック製品の品質がそのままお客様の製品の品質に直結していること、また、その重責を担っていることに、エスベックの存在意義があると考えています。当社は、「お客様へ安全、快適、確実に使命を果たすより確かな製品とサービスの提供」を品質方針として掲げ、グローバルカスタマーの期待に応える高品質の製品の実現に向け、日々取り組んでいます。

■品質保証体制

エスベックは、企業のグローバル化に対応すべく、国内外においてEQA (ESPEC Quality Assurance) と呼ばれる独自の品質保証体制を確立しました。また1993年に国内他社に先駆け品質国際規格「ISO 9001」を取得していますが、その後規格の更新に合わせ2000年版への移行を行うなど、品質保証体制の「継続的改善」を実施し、エスベック製品のさらなる品質向上に努めています。エスベックは、確かな技術と国際レベルでの品質保証体制で、お客様の信頼・要望にお応えしています。

■QMC活動

エスベックは2006年度より、これまで生産現場を中心に行っていたQCサークル活動を、日常業務の中から顧客満足向上・付加価値創造の実現を目指す「小集団活動」へ転換し、QMC (クオリティー マネジメント サークル) 活動として実施しています。これは、設計部門をはじめ、営業・スタッフ部門にいたる全ての部門にその対象を広げ、『全てはお客様のために』という視点で、全員参加型の小集団活動による改善活動として展開しています。

■クリーンサービス活動

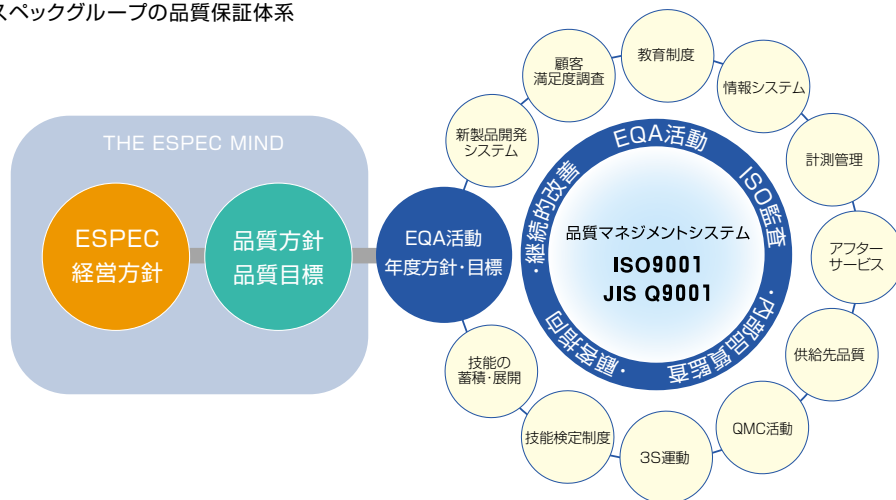
毎年新入社員研修の一環として、お客様の要望調査および製品の簡易点検・清掃を、「クリーンサービス」と称して実施しています。

2005年度は東京、埼玉、名古屋の3拠点で活動を実施しました。この成果は社内発表会で各担当部門にフィードバックし、お客様の声を反映させることで、製品・サービスの質の向上に努めています。



クリーンサービス成果発表会

エスベックグループの品質保証体系



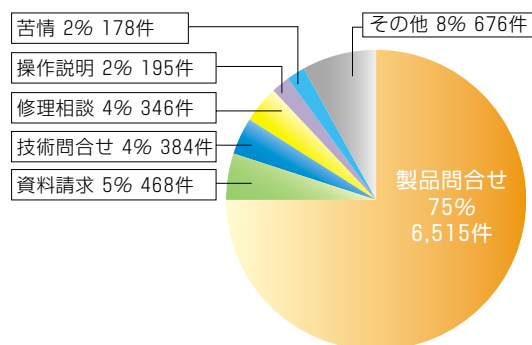
サポート体制

■カスタマーセンター

2003年度にカスタマーセンターを開設し、全国のお客さまや代理店さまの問合せにダイレクトにお応えするサービスを開始しました。2005年度は製品仕様や技術的問合せ、資料請求、不具合・苦情の受付など、昨年度に比べ2,700件多い、年間約8,700件について対応しました。

カスタマーセンターは、お客さまや代理店さまの期待に応える製品・サービスの提供を実現するため、「お客さまの声シート」を活用するなど、設計・開発部門へお客さまの声を最大限に生ずシステムづくりを行い、運営しています。

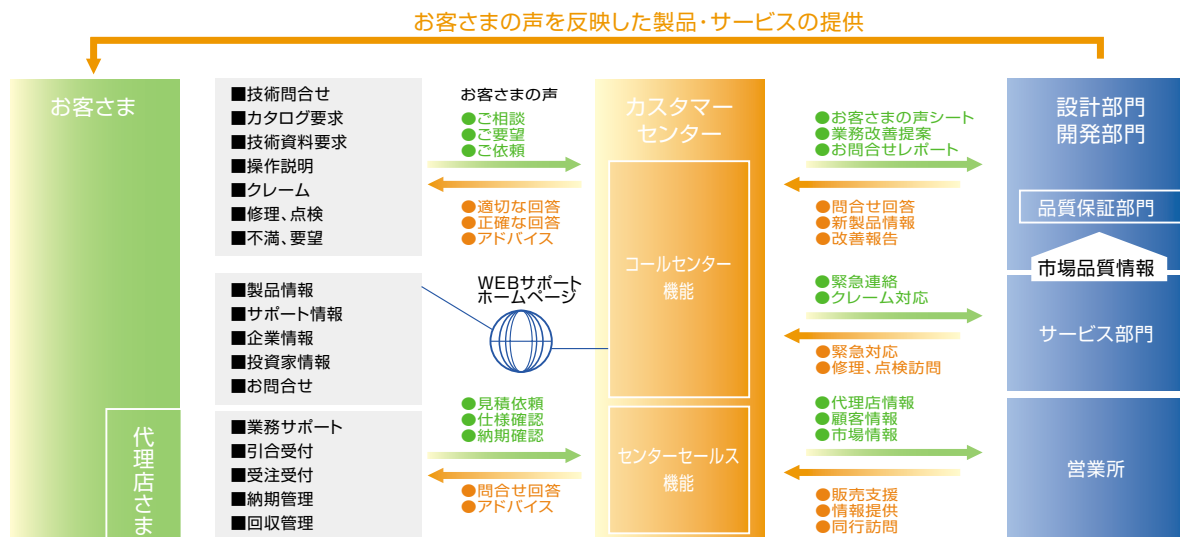
2005年度 お問合せ内容（総数：8,762件）



カスタマーセンター

フリーダイヤル	0120-701-678
FAX	06-6358-4464
営業時間	9:00～17:00(12:00～13:00を除く) ※土、日、祝祭日、当社指定日を除く

カスタマーセンター運用システム



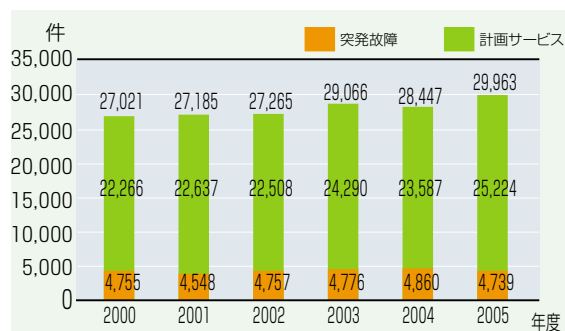
■アフターサービス体制

研究開発や生産工程においてご使用いただいているエスベック製品は、どんな些細なトラブルもお客さまの貴重な時間やコストのロスにつながりかねません。そのため、エスベックでは、全国に22拠点ものサービスネットワークを構築。フィールドでのサービスデータに基づいた最適な予防保全活動で故障防止に努めるとともに、24時間フルタイムの技術対応サービスを行うなど、お客さまの故障に対して迅速な対応で、安心・安全をお届けしています。

また、フィールドでの品質情報をフィードバックし製品の改善にも役立てています。

エスベックでは、製品突発故障の約90%を3日以内（2005年度実績88%）で修理対応しており、その迅速な対応はお客さまから高い信頼と評価をいただいております。

サービス処理件数



顧客満足度向上に向けて

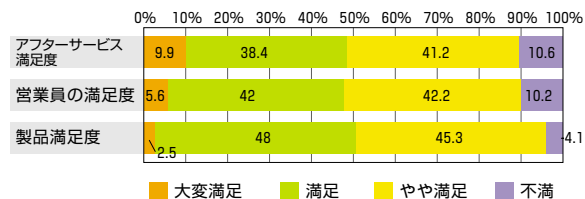
■顧客満足度調査の実施

エスベックは、お客さまの当社に対する意識・評価を的確に把握するために、毎年、アンケート形式による顧客満足度調査を実施しています。2005年度は、前年度に当社製品をご購入いただいた1,000名のお客さまを対象に実施し、418名（回答率41.8%）と多くの方々から回答をいただきました。

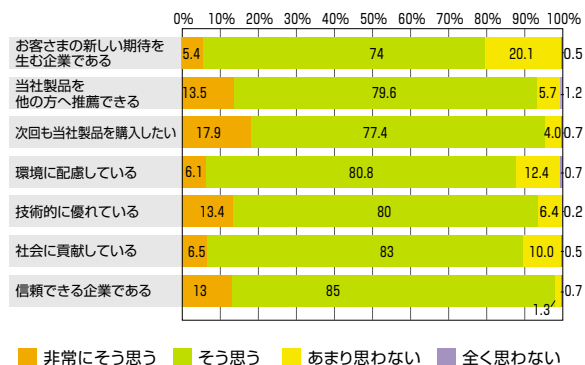
アンケートを通じていただいたお客さま一人ひとりの声や評価に真摯に耳を傾け、みなさまにご満足いただけるよう、さらなる質の向上・改善に取り組んでいきます。

2005年度 顧客満足度調査結果

■エスベックに対する満足度



■エスベックブランドに対する評価

エスベック製品に関するアスベストの使用状況
およびエスベックグループの対策について

現在、社会問題となっておりますアスベストに関して、お客さまのご理解・ご安心をいただくため、エスベックの取り組みをご紹介します。アスベストとは、天然の鉱山の石の中に入っている繊維であり、石綿とも言われています。長さは1ミリから数センチ、太さは0.02ミクロン、髪の毛の5,000分の1の細さで肉眼で見えることは出来ません。また、アスベストが人体に影響をおよぼすのは吸入によって取り込まれる一定サイズのアスベスト繊維とされ、空気中に飛散することのない状態では人体への影響はないとされています。過去、エスベック製品についても、断熱材やシール材として一部製品へのアスベスト含有部材の使用を確認していますが、アスベスト含有部材の大部分はゴム等結合材で固められた状態ですので、通常ご使用いただく場合、飛散の可能性は低いと考えられます。

エスベックの取り組みとしましては、製品部材を2003年までにほぼ代替品に置き換えを実施し、その他部材についても完全廃止に向け代替品への置き換えを早急に進めています。また、お客さまに対する取り組みについて、エスベック製品に関するアスベスト相談窓口を設置したほか、製品の使用箇所とその対策についてホームページに掲載するなど、お客さまへの早急かつ正確な情報提供に努めました。これまで、お客さまからの相談件数は1,340件（製品11,000台分）でした。また、従業員に対しては、過去製品に使用していたアスベスト含有断熱材の加工作業者を対象に特殊健康診断を実施しました。従業員健康診断者数は93名となっています。

エスベックでは、今後ともアスベスト問題の重要性を認識し、お客さまの安全・安心を第一に考え、法令および関係規則を順守し、情報提供に努めてまいります。

5. 取引先さまへの取り組み

基本方針

エスベックは取引先さまと良好なパートナーシップを構築し、相互発展できる関係づくりを重視しています。取引においては、関連法令・法規を順守し、公正・公平な取引関係のもと、グローバルな観点で国内外から必要な資材・サービスなどを適切な品質・価格・納期・環境への配慮などを総合的に判断し調達していきます。

【資材調達の基本方針】

1. オープン

品質がよく経済的でかつ環境に配慮した安全な資材を、適切な納期で購入するために国内外を問わず、広く購入する方針です。

2. 法令の順守

取引を行うに当たって、当社は各国・地域の関連法令の順守と徹底を図ります。また、取引先の皆様にもこれらの順守を求め、さらに児童・強制労働の禁止、差別の禁止、安全で清潔な作業環境の実現を求めます。

3. グリーン調達

当社は、環境保護・保全が世界の重要課題の一つであり、企業経営の基本であることを認識し、環境への汚染防止に努めるとともに、グリーン調達を積極的に行います。したがって環境保全活動に意欲的な取組みを実践している取引先を優先して選定し、当社はそのための支援を行います。

また、環境負荷が少なく、指定有害物資を含まない資材の購入を優先します。

4. 公正・公平

取引の選定については、法令の順守はもちろん、品質・価格・納期・グリーン調達・アフターサービスへの対応、技術力、経営状態を総合的に勘案して経済合理性に基づいて公正、公平に選定します。

5. 相互信頼

公正な取引を通じて、取引先の皆様との相互信頼関係を築き、相互の発展を図ることを願っております。このため、取引先に公正誠実に対応するとともに、購買活動により得られた機密情報を、取引先の承諾もなく他に漏らすことはいたしません。

同様に取引先の皆様も、これを守っていただきます。

取引先さまとのよりよい関係を目指して

■「下請代金法」への対応

エスベックでは、資材調達において「下請代金遅延等防止法（下請代金法）」の順守を徹底することを目的としたさまざまな取り組みおよび社内教育の徹底を図っています。2005年度には、調達に関する社内規定の見直しと下請法チェックリストの作成を実施しました。チェックリストに基づく内部監査を定期的に実施し、さらに懸案事項に対し必要な措置を講じ、違反行為を未然に防ぐ活動を行ってきました。

また、下請代金法をより理解してもらうため、2005年度は講習会を5回開催しました。購買担当者だけでなく、取引先さまと関係のある部署・グループ会社の方に受講していただき、エスベックグループ全体で下請取引を適正に行っていくことを再度徹底しました。



下請代金法講習会

■エスベック共栄会の運営

エスベックでは1981年より取引先さまとエスベックとの相互信頼の構築、および共存共栄を目的とした「エスベック共栄会」を組織しており、現在は43社の取引先さまに参画いただいています。この「エスベック共栄会」では、経営やコスト戦略について学ぶセミナーや工場見学などを年4回実施しているほか、QCサークル活動に関する勉強会を毎月実施するなどさまざまな活動を展開しています。

エスベックではこれらの活動を通して、会員企業さまの経営品質の向上を図るとともに相互理解を深めています。

また、年1回開催される総会において、エスベックの経営方針発表を行い、当社の目指す方向性について取引先さまにもご理解いただき、相互発展していくことを目指しています。

■エスベック優良取引先表彰制度の実施

エスベックでは多大なご協力を賜った取引先さまに対して、感謝の意を表することを目的に、2003年度より「エスベック優良取引先表彰制度」を導入しています。

2005年度は、社長賞1社・優秀賞3社の取引先さまを表彰させていただきました。

■グリーン調達の実施

エスベックは、エスベック共栄会を含む資材調達先に対するグリーン調達を実施しています。2000年に「エスベックグリーン調達基準書」を制定し、2005年度に調達基準書の改訂を行いました。グリーン調達取引先の認定基準には「ISO14001」あるいは「環境活動評価プログラム（エコ・アクション21）」の認証取得、またはこれらの簡易版「エスベック・エコ・スタンダード」による環境保全活動の実施を求めており、これらの取得・実現のために講習会や現地指導による活動支援を行っています。

現在仕入高の80%を占める主要仕入先100社がエスベックグリーン調達取引先の認定基準を満たしています。

6. 快適な職場環境づくり

安全衛生管理

エスベックは安全衛生活動を遂行する上で関連するあらゆる法令を順守することはもとより、安全衛生管理規定を定めるとともに倫理的な見地を重視した自主的な取り組みを推進しています。

■基本方針

全社労働安全・衛生ならびに交通安全運動の展開と教育の徹底により、安全に対する意識の高揚を図り、通勤途上災害を含む労働災害と交通事故の撲滅および心と体の健康の維持増進を期す。

■安全衛生活動の目標と過去3年間の実績

<目 標>

- ・休業災害、不労災害（通勤途上災害含む） ゼロ
- ・健康診断受診率 100%
- ・車、バイク、自転車による人身事故 ゼロ
- ・車およびバイクによる自責事故 ゼロ

<実 績>

年度	2003	2004	2005
目標項目			
休業災害、不労災害 (通勤途上災害を含む)	12	7	6
健康診断受診率	99	98	99
車、バイク、自転車による人身事故	5	4	6
車およびバイクによる自責事故	25	18	21

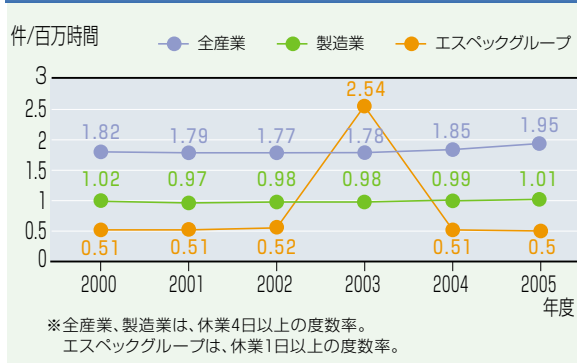
※健康診断受診率は%、その他は件数

■安全衛生活動

主要事業所毎に安全衛生委員会を設置し、委員による事業所内の安全パトロールを行うなど、労働災害の撲滅、労働環境の改善に努めています。

2005年度のエスベックにおける労働災害の発生件数は、以下のとおり、全産業・製造業平均を下回る結果となりました。

労働災害発生件数の推移（不労災害、通勤途上災害除く）



また、交通事故防止の対策として、安全運転適性検査の実施や安全運転講習会による啓発活動により、交通事故の撲滅に取り組んでいます。

2005年、社会問題となりましたアスベストへの対応につきましては、全事業所のアスベスト使用状況と飛散性アスベスト使用箇所の飛散対策実施の調査・確認を行うとともに、過去製品に使用していたアスベスト含有断熱材の加工作業者を対象に特殊健康診断を実施^{※1}しました。

さらに、2006年4月に改正された労働安全衛生法に対応し、単月の時間外労働時間が80時間を超える従業員に対しては会社より、医師による面接指導を原則義務付けています。

※1 診断結果にアスベストに起因する所見はありませんでした。
(その他のアスベスト関連記事:20ページ参照)

■メンタルヘルスケアの推進

近年社会的に増加している精神障害への対策として、2005年6月より従業員とその家族を対象としたメンタルヘルスケア体制を確立しました。

毎月Webによるストレス診断やメンタル知識の修得により、自己予防に努めるとともに、メンタル改善とメンタル不全の早期気付きをサポートする電話と面接による相談窓口を設置しています。

また、ストレス診断の実施結果を分析・把握した上で、管理職向けの研修を開催し、快適な職場づくりに取り組んでいます。休職後の復職時についても専門家のアドバイスを交えた支援を行うなど、うつ病などの精神障害発症を予防・早期発見、発症時の専門的ケアを行っています。

エスベックは人的資産である従業員の心の健康の確保に取り組んでいます。

3S（整理・整頓・清掃）の推進

エスベックでは、3S推進委員会を組織し、各職場のリーダーを中心として職場の問題点の抽出、改善の計画・実行を行うことで、より安全・快適・能率的な職場、改善意識のある職場、自由闊達な職場を目指しています。



7. 社会貢献活動

■災害被害に対する支援

エスベックは、2005年8月に米国南部で発生したハリケーン「カトリーナ」および同年12月のパキスタン北部地震、2006年5月のインドネシアジャワ島中部地震の被害に対する復興支援として、エスベックグループの役員および従業員、取引先さま等より義援金を募り、日本赤十字社を通じて約780万円の寄付を行いました。



赤十字への義援金寄付風景

■エスベック地球環境研究・技術基金

エスベックは創業50周年となる1997年、自らの社会的責任を全うする事業として公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」を設置しました。地球環境保全に関する調査研究や技術開発などに対し資金援助を実施しており、これまでに51団体に対し総額2,800万円の資金援助を行いました。



授与式風景

■「子ども110番の家」へ協力

「子ども110番の家」とは、児童が身の危険を感じたときに駆け込み、援助を求められる民家や商店のことです。昨今の子どもを狙う悪質な犯罪防止のため、各地域で行われている取り組みで、当社の一部の事業所、関係会社でこの取り組みに協力しています。



■ボランティア活動

エスベックでは毎年、労働組合の上部団体JAMの主催による社会奉仕活動に社員を派遣しています。この活動は、大阪府全域から体の不自由な方々をお招きして、遊園地や水族館、海洋クルーズ等で、安全でかつ楽しい一日を過ごしていただくための手助けを行うもので、1988年以来、毎年約80名の方々を招待しています。ささやかな活動ですが、幅広く市民と協力し合って、積極的に継続していきたいと考えています。

■地域清掃活動

1997年、エスベックは世界環境デーである6月5日を含む1週間を「エスベック環境強化週間」と定め、この時期に事業所周辺の通勤路、近隣公園などでの地域清掃活動を実施しています。2005年は24事業所において、612人の従業員が参加しています。



地域清掃

環境的側面

地球環境を見据えた第三次環境中期計画を策定	25
1. 環境マネジメントシステム	26
エスベック全社環境基本方針	26
環境マネジメントの概念	27
ISO14001一括取得	27
環境マネジメントの体制・組織・責任	27
2. 環境パフォーマンス	28
温暖化防止への取り組み	28
資源循環への取り組み	28
製品に関する取り組み	29
化学物質の適正使用	30
消費電力の削減	31
営業での取り組み	32
サービスでの取り組み	32

物流での取り組み	33
オフィスにおける環境保全	33
外部評価	33
コミュニケーション	33
環境啓発活動	34
環境ウィーク	35
エスベックの森	35
ピオトープ	35
物質フロー	36
目標と実績(2005年度)	38
サイト別データ	39



エスベック 環境ポスターコンテスト

優秀賞

タイトル「地球は病んでいる」
小川洋子 オオコド急運株式会社(取引先さま)

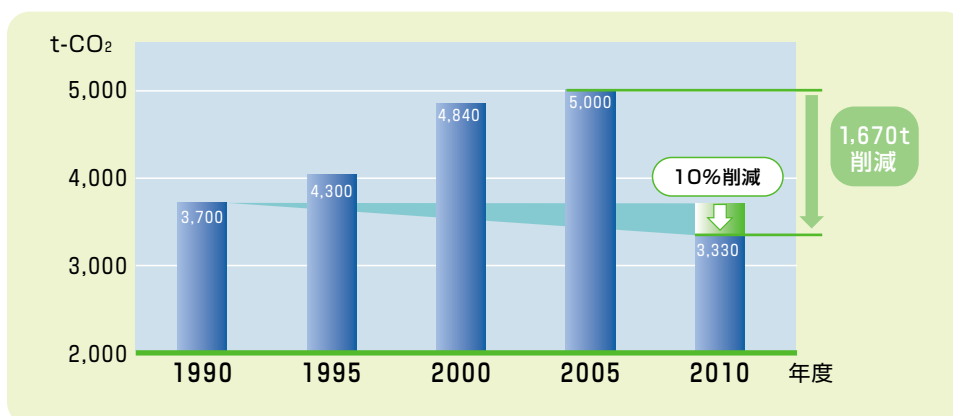
地球環境を見据えた第三次環境中期計画を策定 2010年度 二酸化炭素 (CO₂) 10%削減

エスベックは2005年9月、2010年度を最終年度とした第三次環境中期計画を策定しました。当中期計画では、「2010年度 二酸化炭素 (CO₂) 排出量10%削減 (1990年度比)」^(注1) を目標に掲げるとともに、3R (リデュース「発生抑制」・リユース「再使用」・リサイクル「再生利用」) や社会貢献活動の推進など、地球環境全体を見据えた取り組みを強化してまいります。

(注1) 適用範囲は、国内エスベックグループISO14001全社一括取得の企業から受託試験事業を除いたものとする。

環境中期計画 (CO₂排出量削減計画)

2010年度までに1990年度比10%削減する



グリーンカンパニー実現に向けた重点項目



1. 環境マネジメントシステム

エスベック全社環境基本方針

2005年4月、地球温暖化の防止、資源循環の促進、環境への汚染防止の3つを大きなテーマに掲げ、全社環境基本方針を見直しました。本年度はより一層、いかに環境に役立つか、という高い視点でチャレンジしてまいります。



エスベックグループ全社環境基本方針

【環境宣言】

エスベックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。
単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。
いかに環境に役立つか、という視点こそエスベックたるゆえんである。

【基本理念】

エスベックグループは、環境保護・保全・改善が企業経営の最重要課題のひとつであることを認識します。
環境試験装置、電子デバイス装置などを製造、販売及びメンテナンスしている企業グループであることを踏まえ、
以下の方針に基づき、地球温暖化の防止、資源循環の促進、ならびに環境への汚染防止に努めるとともに、環境
マネジメント活動、製品・サービスの継続的改善を図ります。

【基本方針】

1. 環境に対する社会およびお客様からの要望をフィードバックし、環境に配慮した製品及びサービスを提供します。
2. 省エネルギー、リサイクル、汚染防止の技術を研究開発し、製品のライフサイクルの全ての段階で、環境負荷を低減した製品を開発します。
3. 地球温暖化防止のために、省エネルギーを推進するとともに自然エネルギーの活用を図ります。
4. 排出物を削減するとともにお客様に対してリサイクルシステムを提案し、循環型社会の実現に寄与します。
5. 資材調達における環境負荷の低減を徹底するためにグリーン調達を行います。
6. 事業活動の全ての領域で、有害物質管理を行い、環境の保護・保全に努めます。
7. 環境改善事業、環境計測事業および社会貢献活動を通じて、社会全体の環境保全活動に積極的に貢献し、環境の先駆者として常に業界をリード、牽引します。
8. 社員はもとより家族を含めたエコライフを推進するため、環境教育・啓発活動を展開します。
9. 環境関連法規制ならびにグループが同意したその他の要求事項などの遵守はもとより、必要に応じて自主基準を設定し、環境リスクマネジメントに取り組みます。

これらを実現するために、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を設定し活動するとともに、
環境マネジメントシステムを定期的に見直します。

—この環境方針は組織で働く全ての人に周知するとともに、社外に公表します—

2006年4月1日

エスベック株式会社

野村浩一

環境マネジメントの概念

エスベックは、地球温暖化の防止、資源循環の促進ならびに環境への汚染防止に取り組んでいます。

そのため、「ISO14001」を環境マネジメント活動の核と捉え、なによりも「遵法」、利害関係者との「コミュニケーション」、これに基づく事業活動や製品サービスについての環境改善・社会貢献を行うこととしています。



ISO14001一括取得

エスベックは1996年の「環境管理」導入後、サイト単位での環境マネジメント活動と「ISO14001」認証取得を積み重ね、2003年からは国内グループ5社28※1)事業所による全社一括活動を行っています。

※1) 2005年から30事業所に拡大

エスベック株式会社
エスベックエンジニアリング株式会社
エスベック関西株式会社
エスベック環境試験技術センター株式会社
エスベックビジネスクリエイト株式会社
国内30事業所が対象



■単独取得事業所

取得年月日	事業所
2000年12月 1日	広州愛斯佩克環境儀器有限公司 (海外事業所)
2003年 3月12日	エスベックテクノ株式会社 (国内のグループ会社)
2004年 7月 8日	エスベック九州株式会社 大分支社
2004年 8月 4日	エスベック九州株式会社 本社

エコアクション21取得事業所

2005年 4月27日	エスベックミツ株式会社
-------------	-------------

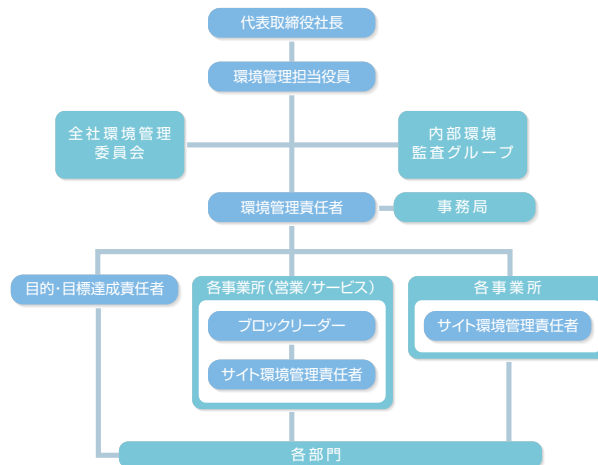
環境マネジメントの体制・組織・責任

エスベックでは環境マネジメント活動を推進する母体として、1996年4月に全社環境管理委員会を設置しています。委員長、副委員長には社長、環境管理担当役員が就任。全社共通の目標管理、案件の審議などを行います。環境管理責任者からの運営上の総括的な指示のもと、全事業所をいくつかのブロックに編成し、各ブロック単位でブロックリーダー及び試験所統括者の統括のもと、各事業所のサイト環境管理責任者を中心に活動を展開する体制としています。



全社環境管理委員会

■環境管理活動の組織図



2. 環境パフォーマンス

温暖化防止への取り組み

エスベックは、2010年度までに1990年度比でCO₂排出量を10%削減する目標^{※1}を設定し、温暖化防止に取り組んでいます。

■2005年度の取り組み結果

生産のCO₂排出量は、2004年度比で4%増加しました。これは工場での省エネやチーム・マイナス6%に組み込み、60tの削減効果を得ましたが、R&D拠点での新製品開発に伴うエネルギー消費が増加したことによるものです。

CO₂排出量推移



■今後の取り組み

2006年度からの「エスベックGカンパニープラン」において、事業の大幅な拡大に向けて活動を進める中、削減目標達成に向け主に次の活動を進めます。

- ①生産設備の高効率化
- ②生産工程の高効率化
- ③社有車の省エネ化
- ④フロン回収の実施
- ⑤自然エネルギーの活用



ハイブリッドカー



太陽光発電施設

※1) 25ページ(注1)をご参照ください。

資源循環への取り組み

エスベックは、2007年までに製造拠点でゼロエミッション^{※2}を達成する目標を設定し、資源循環に取り組んでいます。また、排出物の削減(リサイクル対象品も含めた廃棄物総量の削減)についても活動を進めています。

■2005年度の取り組み結果

福知山工場は再資源化率97%を達成しました。また、営業所・サービス拠点を含めてゼロエミッションを達成した事業所は2004年度は5事業所でしたが、2005年度は9事業所^{※3}に増加しました。

排出物量については、2004年度比で7%増加しました。



写真を貼り付けた分別方法揭示板

■今後の取り組み

事業所でのゼロエミッション化、排出物削減の取り組み、中古製品の買取り・販売に加え、「使用済み製品をリユース、リサイクルするための仕組み」の再構築など、次の活動を進めます。

- ①製造工程からの廃棄物の削減
- ②物流部門における梱包材のリサイクル化
- ③お客さま先における使用済み製品のリユース
- ④お客さま先における使用済み製品からの使用可能な部品の回収とリユース

ゼロエミッション達成事業所推移



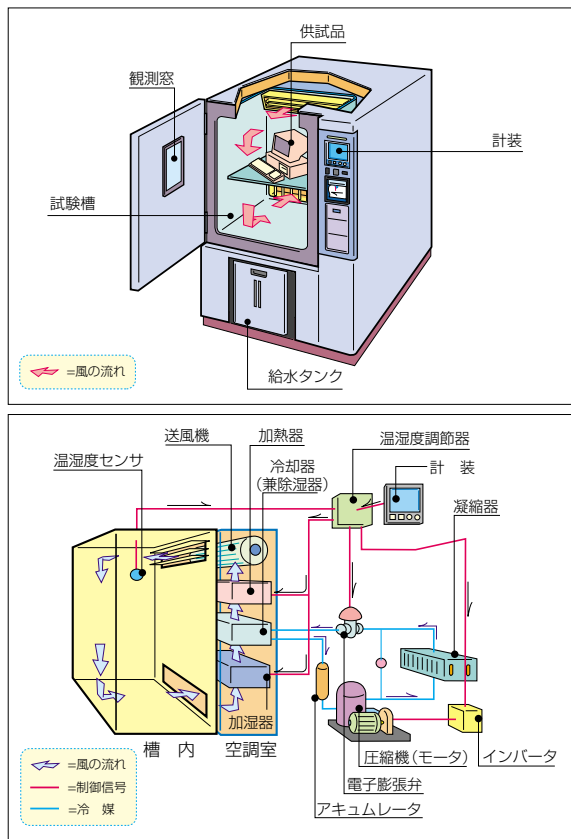
※2) 再資源化率99%以上(埋立廃棄物が排出物総量に占める率が1%未満)

※3) つくば営業所、金沢営業所、西東京営業所、仙台営業所、横浜ランチ、厚木ランチ、神戸R&Dセンター、エスベック関西(株)兵庫営業所、エスベック環境試験技術センター(株)横浜試験所

製品に関する取り組み

■製品構造概略

エスベックの主力製品「環境試験装置」は、次のような構造、構成になっています。



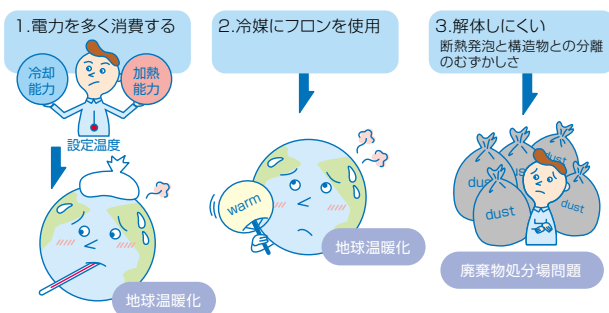
■エスベック製品の環境的側面

環境試験装置は、金属の内外槽、ウレタン断熱材、電気・機械部品などで構成されています。気象環境を再現するのに、HFCフロンを用いた冷凍回路と電気ヒーターによるバランスで温湿度を制御しています。

この環境試験装置が地球環境に与える影響は、

- 運転時の電力消費による地球温暖化
 - HFCフロンが大气放出された場合に地球温暖化
 - 製品廃棄時の廃棄物処分場圧迫
- などが挙げられ、改善点を多く抱えています。

製品の環境上の問題点



■製品開発の考え方

エスベックは、お客さまや社会のお役に立つ製品、安全・品質・価格・環境・納期のすべてを満足する製品を開発し続けています。

1999年に制定した「環境配慮開発設計ガイドライン」は、

- 製品ごとの環境目標値
 - 資源投入～加工～使用～廃棄の全ライフサイクルの環境アセスメントの実施指示
 - 「環境デザインレビュー」の実施指示
 - 経営層による環境面評価、量産、出荷可否判断
 - 使用推奨素材の指定、使用禁止物質の指定
- などで構成されています。

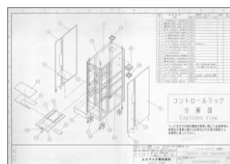


■リサイクルへの取り組み

金属でできた外装と内槽との間にウレタン断熱材を施した当社の製品。現状、解体が困難であり、廃棄物処分場に負担をかけています。エスベックでは開発段階から製品のリサイクルを考え、

- 解体しやすい構造
- 一般工具で解体できる構造
- 解体手順書の発行、公開
- 樹脂部分の材質マーキング

などを新規開発品・モデルチェンジ品に適用。2001年度は使用禁止物質／使用推奨物質の見直しを5品目行うとともに、解体手順書の製品貼り付けを開始しました。



解体手順書



素材マーキング例

■梱包材への取り組み

エスベックは製品をカバーする樹脂製袋は、厚みを極限まで薄くしました。梱包材料についても、木枠梱包を見直し、

- 重量物用ダンボール梱包の開発（特許2件公開中）
- 輸送業者との連携による裸（梱包なし）輸送を実施しています。

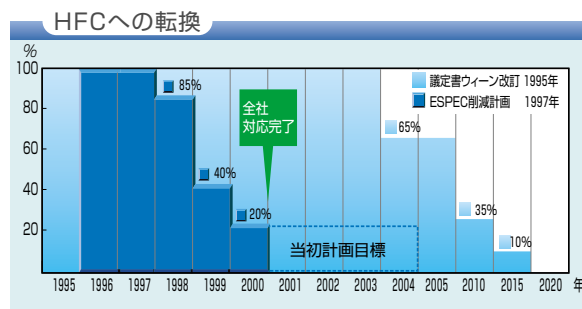
これらの取り組みにより、森林資源の保護、緑の保護、有害物質の排除に努めています。



段ボール梱包例

■冷媒フロンへの取り組み

エスベックでは、1995年のCFCフロン全廃規制に先駆け、1994年にCFCフロンを製品・工場から排除。次にオゾン層破壊係数「0」のHFCフロンへの転換を進めました。性能、信頼性等に関する問題を解決しながら、2000年秋、当社製品の冷凍回路のHFC転換を完了させています。



化学物質の適正使用

■危険有害化学物質への取り組み

エスベックでは、製品設計にあたり使用禁止物質を指定し、有害物質の使用を削減してきました。なかでも、鉛については1998年より自社製造のプリント基板において、そのベースとなる板の部分で鉛フリー化を進めてまいりました。昨今話題となっているRoHS指令における6品目の有害物質については、2006年3月現在、当社製品はRoHS規制の対象製品ではありませんが、自主的にRoHS対応部品への代替化を進めています。

■PRTR

エスベックでは、約300種類の危険有害化学物質を使用しています。(当社基準に基づく選定)。これらに対し、MSDSの配備、使用・保管に関する手順書の整備、より安全性の高い物質への置換えの促進など適正な管理を実施しています。化学物質の移動量管理については、自主管理基準:1kg以上を集計単位として管理しています。また、お客さま先での作業に伴う化学物質の使用についても集計しています。2005年度、法的報告義務である1t以上の取扱量になる事業所はありませんでした。

2005年度 全社PRTR実績

事業所内				(自主測定)	
				事業所外	単位:t
第1種指定化学物質の名称				単位:t	
第1種指定化学物質の番号				単位:t	
年間取扱量				単位:t	
製品への含有分(自主測定項目)				単位:t	
リサイクル分(売却分)(自主測定項目)				単位:t	
排出量	イ) 大気への年間排出量			単位:t	
	ロ) 公共用水域への年間排出量			単位:t	
	ハ) 当該事業所における土壌への排出(二)以外			単位:t	
	ニ) 当該事業所における埋立処分			単位:t	
移動量	イ) 下水道への移動			単位:t	
	ロ) 当該事業所の外への移動(イ)以外			単位:t	

消費電力の削減

エスベックでは、積極的にエコプロダクツに取り組んでいます。これまでは製品の消費電力削減を重要なテーマとして掲げ、1996年度以降、数々の省エネ型製品を世に送り出してきました。

今後は、3つの大きなテーマ

「循環型社会の形成促進」

「地球温暖化の防止」

「化学物質の適正使用」

を軸に活動を進めてまいります。

小型環境試験器シリーズ

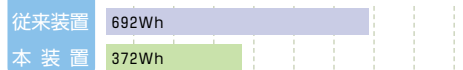


従来比（機種平均）

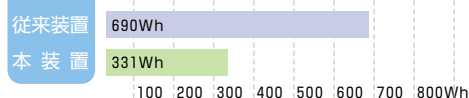
32%
省エネ

SH-241の場合

●+85℃/85%rhの条件



●+20℃の条件



冷熱衝撃装置シリーズ

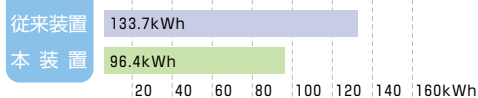


従来比（機種平均）

28%
省エネ

TSD-100の場合

●当社指定による条件



恒温恒湿器 プラチナスKシリーズ

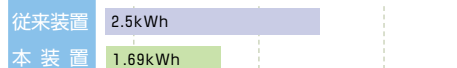


従来比（機種平均）

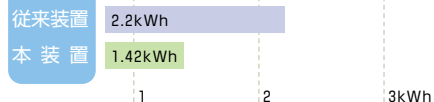
32%
省エネ

PL-2Kの場合

●+85℃/85%rhの条件



●+20℃の条件



計測システムシリーズ

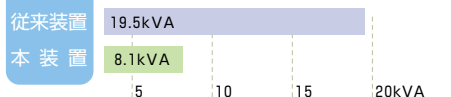


従来比

58%
省エネ

AEM-2000（エレクトロマイグレーション評価システム）

●当社指定による条件



恒温恒湿室 ビルドインチャンバー



従来比（機種平均）

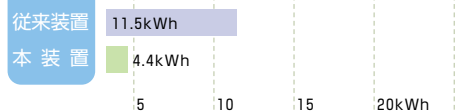
42%
省エネ

6型ACU30の場合

●+85℃/85%rhの条件



●-10℃の条件



※上記の各数値は単位時間あたりの比較で、あくまでも参考値です。

営業での取り組み

エスベックは、生産事業拠点での環境マネジメント活動にとどまらず「営業」での環境マネジメント活動を行っています。

- 環境に関するお客さまの声を積極的に聞き、製品・サービスに活かす。(インプット)
- 環境に配慮した製品・サービスをお客さまに提供する。(アウトプット)

これが、営業活動での環境マネジメント活動である、と考えています。エスベックは、環境に配慮した製品をお客さまへ提供することを通じ、お客さま先での環境への負荷の低減に努めています。グラフは、省エネ型製品の拡販実績とこれに伴うお客さま先での電力使用量の削減効果です。

お客さま先での製品消費電力削減量



サービスでの取り組み

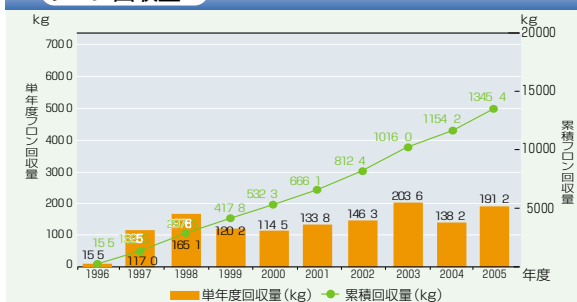
社会でのフロン回収

エスベックのグループ会社であるエスベックエンジニアリング株式会社は、1995年度、修理・廃棄時のフロン回収を開始しました。フロン回収破壊法に基づく第一種フロン類回収業登録を全国の自治体に行っています。回収した冷媒フロンは、フロン類破壊処理業者にて高温水蒸気法により処理を行い、無害化します。ご希望のお客さまには破壊処理証明書を発行しています。

冷媒回収量はお客さまのご理解も得られ、13.5tにも及びます。(2006年3月累積値)

超低温領域である -70°C や -100°C を再現するには、低沸点冷媒フロンが使用されています。この低沸点冷媒フロンについては、2002年3月「低沸点冷媒回収装置」を独自に開発。2002年度より各サービス拠点に配置し、低沸点冷媒の回収を行っています。

フロン回収量



フロン回収風景



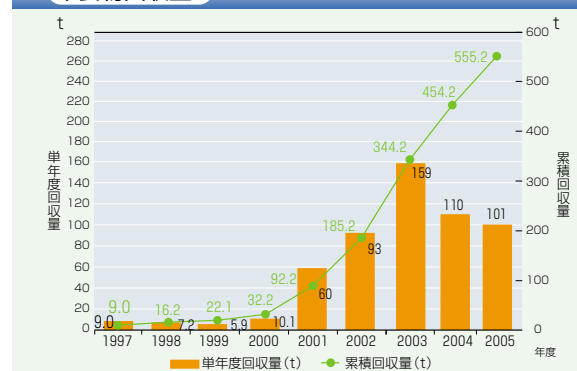
低沸点冷媒回収装置

お客さまからの不要物回収

エスベックエンジニアリング株式会社では、お客様先で行った保守・修理業務時に発生する不要物を全て持ち帰り、自社内で分別・適正処理するシステムを運用しています。その回収量は、550tになります。

(2006年3月現在累積値)

不要物回収量



物流での取り組み

■徹底した通函化

エスベックでは、仕入先さまからの資材・部品納入に伴う梱包材・緩衝材に関し通函化することを契約条件にしています。またエスベックから仕入先様に通函を提供し、納品してもらうシステムも構築しています。また緩衝材などは、いったん社内で保管し、社内物流に再利用したり、仕入先様に無償で持ち帰ってもらうことで、事業所から出る廃プラスチック類の量を削減しています。

オフィスにおける環境保全

■事務用紙削減

事務・設計に必要な各種事務用紙。大切な森林資源を費やしているとともに、生態系の変化などをもたらしています。2005年度は、1,100万枚と2004年度比6%削減しました。今後も、事務用紙の削減のため、主に次の活動を進めます。

- 使用済みのコピー用紙の裏面再利用
- 縮小・両面コピーによる配布枚数の削減
- 配布先の見直し、回覧化、電子メール化
- 電子媒体による保管・閲覧など

事務用紙購入量



■グリーン購入

エスベックでは、事務用品、OA機器、衛生用品などについてグリーン購入を推進しています。現在の選定基準は、環境保全に関するエコマークのあるものおよびグリーン購入ガイドライン（GPN）に沿ったものとしています。2005年度は、日用品を対象にグリーン購入率51%^{※1}を達成しました。今後は、全事業所を集計対象に、グリーン購入率85%を目指して活動を進めます。

※1) 集計対象は本社事業所

外部評価

■日本環境経営大賞「環境経営優秀賞」を受賞

2005年6月、エスベックは「第3回日本環境経営大賞 環境経営優秀賞」を受賞しました。

日本環境経営大賞とは、日本環境経営大賞表彰委員会および三重県が主催、環境省、経済産業省、財団法人社会経済生産性本部などが後援している表彰制度です。

この表彰制度では、環境経営のさらなる普及・発展を図り、「持続可能な社会」への転換を促進していくことを目的として、事業規模の大小や業種・業態にかかわらず、全国の企業（事業所）、NPO、学校などのあらゆる組織体の環境経営の取り組みの中から、優れた成果をあげているものを顕彰しています。



授与式

■環境経営度調査

日本経済新聞社主催の「2005年度環境経営度調査」では、エスベックは67位に評価されました。

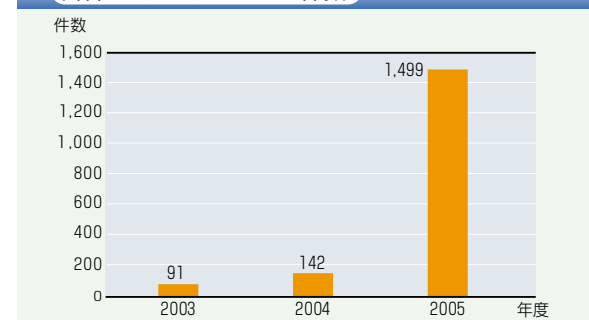
2001年度-14位 2002年度-32位 2003年度-37位
2004年度-94位

コミュニケーション

■外部コミュニケーション件数

エスベックとお客さま、周辺住民の方々をはじめとするステークホルダーとのコミュニケーション件数は図のとおりです。2005年度はアスベストに関するお問い合わせを、多くいただきました。

外部コミュニケーション件数



■アンケートご意見

前号である、「エスベックCSRレポート2005」は約11,000部発行しました。このCSRレポートの巻末にはアンケート用紙を添付。2006年5月までに20件のご返送をいただきました。ありがとうございました。その内容は、お褒めの言葉以外にも、ご意見、ご希望も頂戴することができました。これらのご意見・ご要望を真摯に受けとめ、今後の活動に生かしていきたいと考えています。

環境啓発活動

■新エネルギー・太陽光発電の研究

宇都宮テクノコンプレックスには1995年、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）から太陽光発電フィールドテスト事業の共同研究者として事業の委託をうけ太陽光発電施設を設置しました。5年間の共同研究は完了しましたが、太陽光発電の長期信頼性を研究するため引き続き、基礎データの採取を実施しています。

また、この施設は工場への来客者・地域住民・近隣小中学校の見学などに、広く公開しています。環境の大切さを知っていただくひとつの機会として役立っています。

■フューチャラボ（展示館）の運営

太陽光発電施設の隣に、「フューチャラボ」（展示館）を設置。太陽光発電や燃料電池の模型、パネル展示、環境関連文献などに実際に触って体験していただくことができます。2001年からはこの施設を活用した環境フェスティバルを開催。ソーラーカーの試乗会、牛乳パックによる紙すき大会など、広く一般の方に環境啓発活動を実施しています。2006年度は692名と2004年度比、180%増加しました。



太陽光発電施設とフューチャラボ（展示館）

■ソーラーカー・ラリーへの参戦

クリーンエネルギーの太陽光発電。エスベックグループではソーラーカー・ラリーを通じて、太陽光発電に関する基礎研究と社会への啓発を行います。

エスベックグループは、1997年以来、ワールド・ソーラーカー・ラリーへの参戦を援助。1999年夏にはエスベックが技術・資金援助を行う、高校が、フレッシュ部門優勝および技術賞を受賞。おおきな喜びとなりました。2000年度からは、エスベックグループとして参戦。2004年度は念願のクラス優勝をすることができました。2005年度は、ソーラーカーと燃料電池車で参戦しました。



ソーラーカー



燃料電池車

■地域の環境フェスティバルへの参加

エスベックは地域の環境フェスティバルなどにも積極的に参加しています。2005年度は11月の大阪府等が主催する環境フェスティバルや12月の京都府が主催する環境フェスティバルに出展しています。



大阪での出展

■地域社会における環境会議への参加

エスベックの主力工場の一つは福知山市にあります。ここ福知山市では2004年3月に一般市民・事業者・行政が一体となって福知山市環境基本計画が策定されました。

エスベックは、その策定主体であったふくちやま市民環境会議にこれまで参画をしてきましたが、2005年6月25日、この福知山市環境基本計画を実施・進捗管理していくための福知山環境会議（通称：福知山エコパートナーシップ）が発足。エスベックはこの福知山環境会議にも参加し、継続的な協力をしてまいります。



福知山環境会議

■市民啓発イベントへの協力

福知山工場の近くにある天津公民館での、川の水質・生き物調査。子供たちの夏休み自由研究として父兄を含め約50人の参加がありました。エスベックからは指導員を派遣し水質測定用のキットを無償提供しました。簡易キットによるCOD測定やタイコウチやスジエビなどのたくさんの水生昆虫が見つかるなど父兄を含めた子供たちの環境への関心を深めるために一役買っています。



生き物調査の様子

環境ウィーク

■エスベック環境強化週間

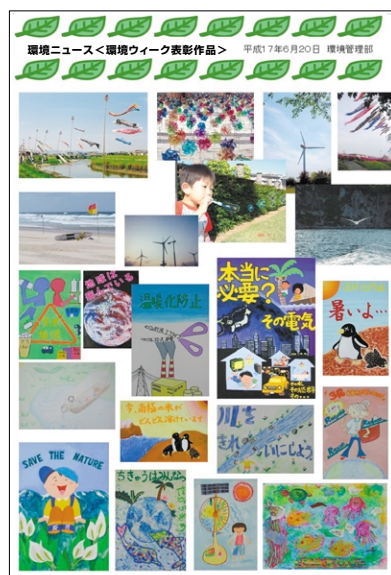
エスベックは、1997年に、6月5日の「世界環境デー」を含む週を「エスベック環境強化週間」に設定。

環境保全・改善に対する意識の高揚を目的とし、全従業員、お取引様並びにそのご家族などを対象に、環境啓発に係る各種取り組みを行なっています。

2005年度は、「環境改善提案」、「環境功労表彰（部門・個人）」、「環境写真コンテスト」、「環境ポスターコンテスト」等の各種表彰、地域清掃活動、ビオトープでの観察会などを実施しました。

■環境ニュース

エスベックは、従業員向けの環境啓発活動の一環として、環境ニュースを発行しています。ここでは主な環境関連行事や各事業所の環境保全活動の事例紹介などを行なっています。



エスベックの森

「エスベックの森」は、(財)国際生態学センター研究所長(横浜国立大学名誉教授)宮脇 昭博士のご指導のもと、幼苗植栽手法により土地本来の潜在自然植生を利用した「ふるさとの木による、ふるさとの森づくり」を実践したものです。

「エスベックの郷土の森づくり」をテーマに、2001年6月21日と10月27日、エスベックグループ社員とその関係者、延べ約1,100人が森づくりを通じて地球環境保全を考えるために参加。ともに汗を流してタブノキ、アラカシ、シラカシなどのポット苗約23,000本を、神戸R&Dセンターの事業所敷地内(斜面7,500m²)に植樹しました。



植樹の様子



育った木

ビオトープ

神戸R&Dセンターに新たに施工されたエスベックのビオトープ「バンビの里」は、共生ゾーン、せせらぎゾーン、ビオトープゾーンの3つのゾーンから構成されており、従業員や近隣の子供たちが、自然と触れ合い、環境について学べるフィールドとなっています。



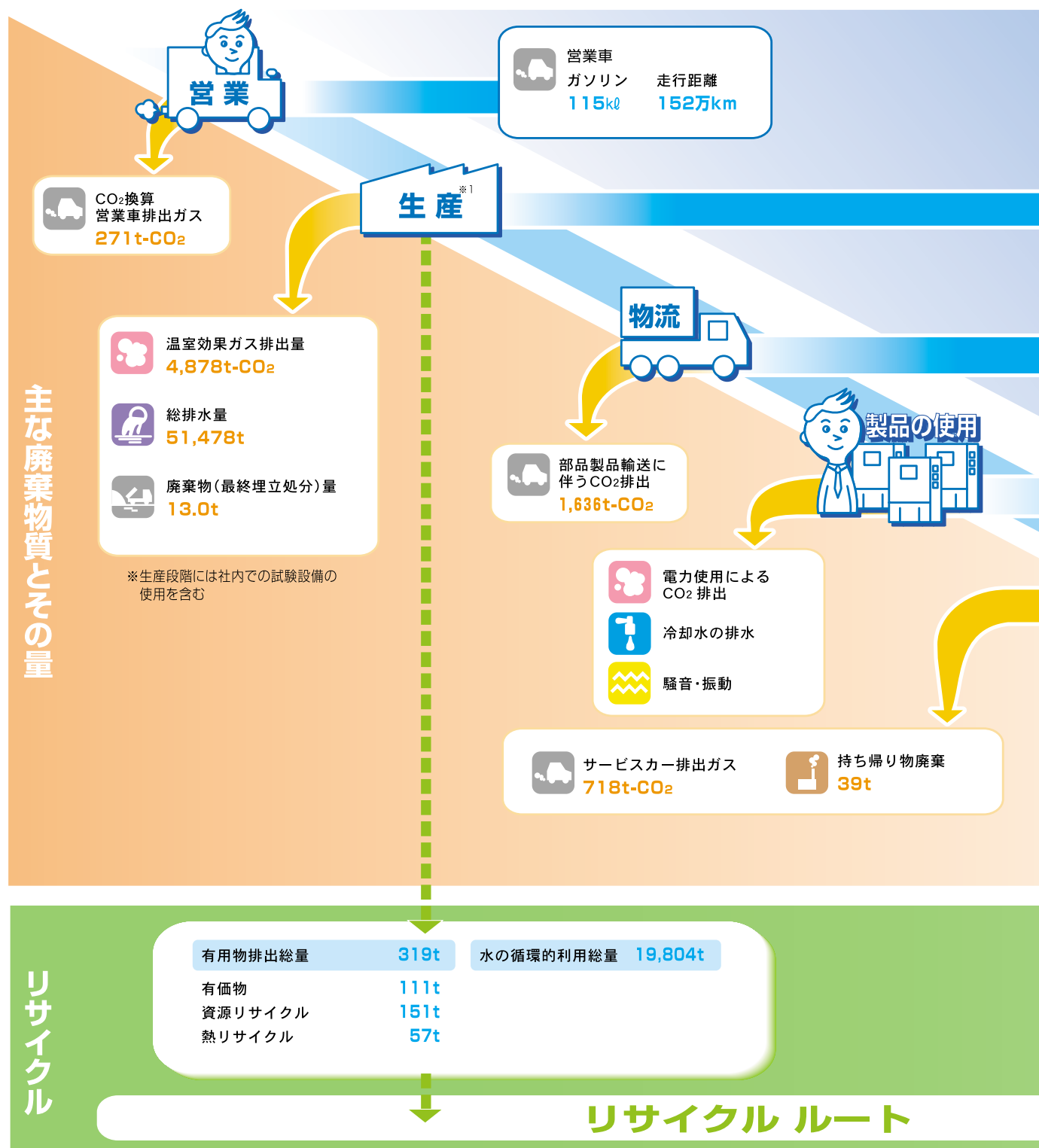
エスベックのビオトープ「バンビの里」



エスベックのビオトープ「バンビの里」

物質フロー

エスベックでは事業活動による投入/排出物の量を「物質フロー」として公開しています。



主な投入物質とその量

総物質投入量	4,218t	総エネルギー使用量	193,011x10 ⁶ kJ	水使用量	71,282t(上水道+工業用水)
鋼材購入量	3,790t	電気使用量	1,693万kWh-173,533 x10 ⁶ kJ		
部品投入量	428t	ガス使用量	448,070m ³ -19,295 x10 ⁶ kJ		
		石油使用量	4,918ℓ(灯油)-183 x10 ⁶ kJ		



部品総輸送量
17万t・km

(総部品総量:2,400 t 総走行距離:81,360 km)



製品総輸送量
108万t・km

(総製品重量:2,953t 総走行距離:272.0 万km)



総輸送量
125万t・km



製品使用時の電力



製品使用時の冷却水



環境配慮製品販売比率 47%
※台数比率



サービスカー燃料等

ガソリン 291kℓ 軽油 12kℓ 総走行距離 275万km

製品廃棄



エスベックリサイクルシステム
(製品引取・リサイクル・処理システム)



(再構築中)

フロン回収総量 1,912kg
(CFC:464kg/HCFC:744kg/HFC:703kg)

持ち帰り物資源リサイクル 54t

目標と実績(2005年度)

エスベックグループ環境目的 (2004年4月～2008年3月)		活動実績(2005年度)	自己評価	参照ページ
1	環境配慮製品の販売台数を2007年度末までに年間4,500台とします。	環境配慮製品を年間4,577台販売。	◎	32
2	お客さまからの環境に関する声を収集し、社内へ改善提案として10%以上フィードバックします。	お客さまからの声を累計で1,330件収集し対応。 注)主にアスベスト関連	○	33
3	使用済み製品に対しエスベックリサイクルシステムを積極的に活用します。	エスベックリサイクルシステムのシステムを見直し中。 中古製品を年間132台販売。 注)広域認定の申請	△	—
4	LCA手法を活用し、環境配慮技術の開発を行います。	要素技術の開発に向け計画。	△	29
5	日常業務に伴うグリーン購入比率を向上します。	グリーン購入比率を51%達成。 注)対象はエスベック本社事業所 グリーン購入対象商品の選定基準を見直し。	○	33
6	事業活動に伴い発生する地球温暖化ガス(CO ₂ ガス)の排出量を削減します。※1	CO ₂ の排出量、2004年度比4%(200t)増加。	△	25・28
7	代理店の環境マネジメント支援を2007年度末までに、累計で10件以上実施します。 そして、「ISO14001」を10社以上取得できるようサポートします。	代理店の環境マネジメント支援を3件実施。	◎	—
8	製品のRoHS対策を、2006年の規制に合わせて対応します。※2	市場情報その他の関連情報を収集。購入部品を順次、RoHS対応部品に代替化。	△	30
9	製造拠点において、ゼロエミッション化を2007年度末までに実現します。	主力の福知山工場においてリサイクル率97%を達成。	○	28
10	市民への環境啓発活動として宇都宮テクノコンプレックスのフューチャーラボの入場者を増やします。	宇都宮テクノコンプレックスのフューチャーラボへ年間692人が来場。	◎	—
11	社員等の環境教育の場として神戸R&Dセンターの森と水辺の空間を活用します。	エスベックの森やピオトープを活用した環境教育に、家族を含めて98名参加。	◎	35
12	事務作業において環境配慮に取り組みます。	事務所の排出物量、電気使用量、事務用紙の購入量、ガソリン使用量の内、ガソリン使用量以外の3項目について、前年度累計量の1%削減を達成。	△	33

※1 対象範囲はエスベック株式会社、エスベックエンジニアリング株式会社、エスベック関西株式会社、エスベックビジネスクリエイト株式会社の4社です。

※2 2006年3月現在、当社製品はRoHS規制対象製品ではありません。

◎:大きな成果 ○:計画に沿った成果 △:計画を下まわる、または計画から外れる成果

サイト別データ

	エスバック 本 社	福知山工場	宇都宮テクノ コンプレックス	神戸 R&Dセンター	エスバック エンジニアリング 本社	ISO14001一括取得 対象事業所合計 (30サイト)
地域区分	商業地域	工業専用地域	工業地域	準工業地域	準工業地域	—
敷地面積	1,668m ²	54,822m ²	30,320m ²	31,911m ²	490m ²	—
操業形態	日勤 (8:30-17:10)	日勤 (8:30-17:10)	日勤 (8:30-17:10)	日勤 (8:30-17:10)	日勤 (8:30-17:10)	—
稼働年度	1947年	1974年	1991年	2001年	1983年	—
従業員数	343名	361名	73名	85名	74名	1,205名
主な業務・生産物	環境試験装置・ 電子デバイス装 置の販売、開発 ・設計 ならびに資材・ 部品の購買業務	環境試験装置・ 電子デバイス 装置	電子デバイス装 置、プリント基板	技術開発拠点、 製品・部品物流 拠点および受託 試験	環境試験装置、電 子デバイス装置 等のメンテナン ス(点検・保守)	—
排出物の発生量	21.6t	261.8t	12.3t	19.6t	28.2t	440.8t ^{※1}
産業廃棄物量	0t	87.3t	7.8t	5.9t	19.7t	194.8t
事業系一般廃棄物量	21.6t	63.1t	4.5t	4.2t	3.0t	119.5t
電力	87万kWh	420万kWh	271万kWh	333万kWh	20万kWh	1,698万kWh
事務用紙購入量	300万枚	244万枚	20万枚	74万枚	22万枚	1,097万枚
ガス使用量	42,167m ³	342,087m ³	—	100,320m ³	33m ³	488,070m ³
社有車保有台数	14台	5台	12台	5台	17台	217台
うち、ハイブリッドカー	—	—	—	—	—	6台
燃料使用量(ガソリン)	25.5kℓ	9.3kℓ	21.7kℓ	5.8kℓ	19.8kℓ	397.7kℓ
燃料使用量(軽油)	—	—	—	—	—	11.7kℓ
走行距離	258,289km	86,720km	202,114km	63,774km	194,773km	4,160,473km
遵法への対応(騒音など)	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
地域からのクレームなど	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし	1件 ^{※2}

※1 お客さま先での作業時発生分を含む

※2 夜間の換気ファン消し忘れに対し周辺住民からクレームあり

経済的側面

エスベックグループ体制図	41
営業概況・財務ハイライト	41
業績推移	42
セグメント別売上構成比(2005年度)	42
環境会計	43
算出根拠	44
年表	45
事業所一覧	46



エスベック 環境ポスターコンテスト

大賞

タイトル「温暖化防止」
田丸公子 オオヨド急運株式会社(取引先さま)

エスベックグループ体制図

(2006年4月1日現在)



営業概況・財務ハイライト

売上高、利益とも過去最高 3期連続で増収増益を達成

エスベックは、3ヵ年経営革新計画「ESPEC130プラン」の最終年度である2005年度において、自動車やデジタル家電といった好調市場や試験需要が拡大する海外成長市場での販売力を強化するとともに、「コスト/品質改革」の推進や不採算部門の収益改善などに重点をおいて取り組んでまいりました。

また、新技術・新製品の開発や新たな収益の柱となる新規事業への参入など、長期的な成長に向けた取組みについても強化してまいりました。

こうした結果、特に環境試験事業と電子デバイス装置事業が好調に推移し、受注高・売上高ならびに営業利益のすべてにおいて、過去最高を達成することができました。

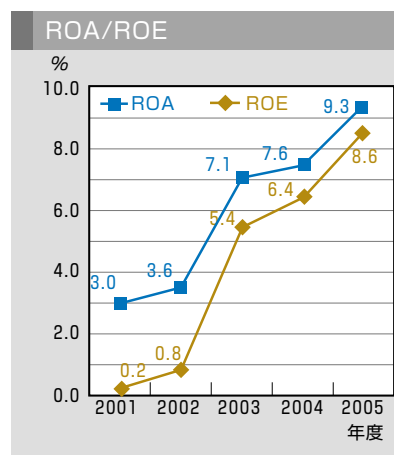
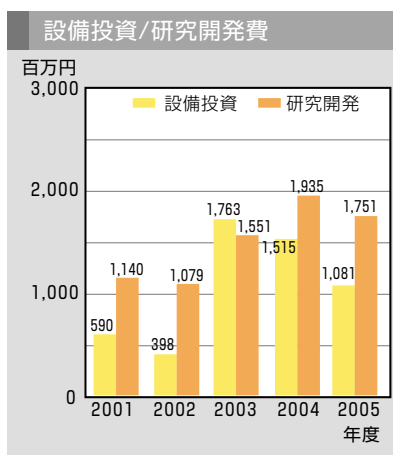
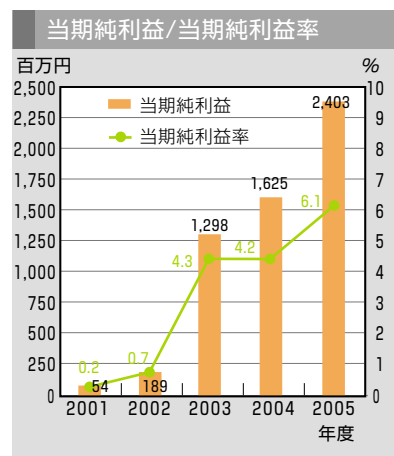
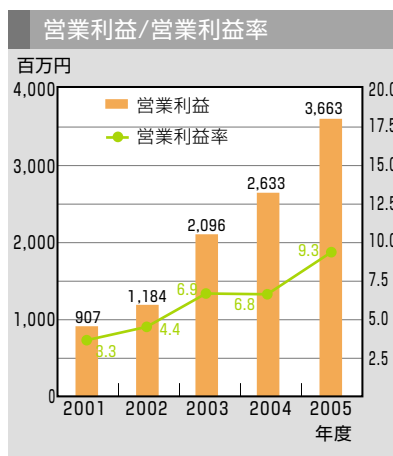
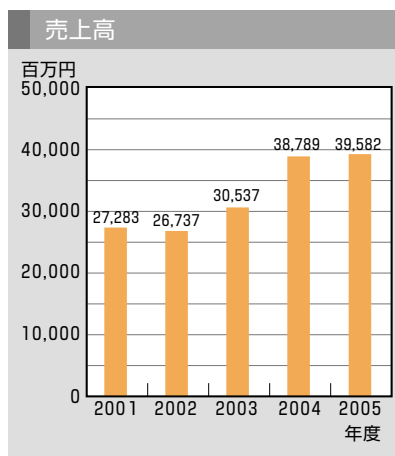
※決算に関する詳細は、下記URLでご覧になれます。

(<http://www.espec.co.jp/corporate/ir/ir.html>)

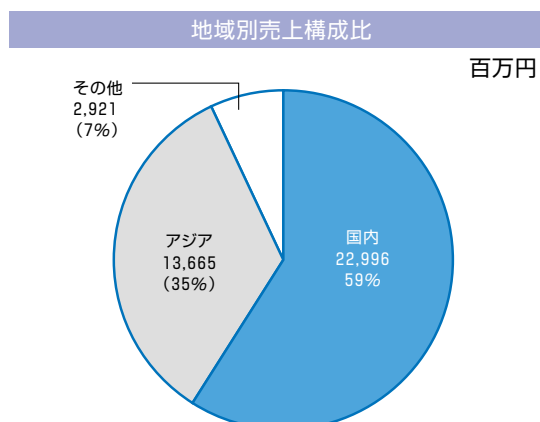
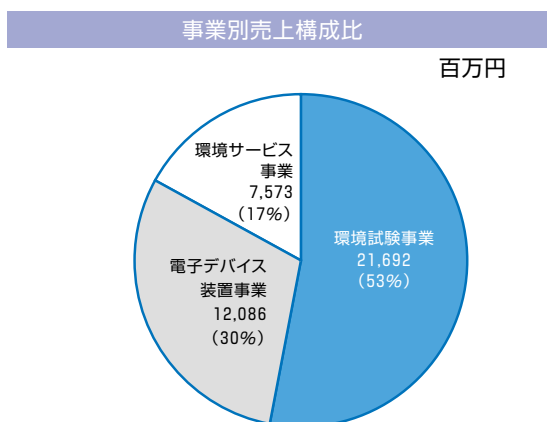
営業概況(2005年4月～2006年3月)

	連結	単独
売上高	39,582百万円	28,361百万円
営業利益	3,663百万円	2,395百万円
経常利益	3,869百万円	2,698百万円
当期純利益	2,403百万円	1,689百万円
総資産	43,182百万円	36,313百万円
総資産利益率(ROA)	9.3%	7.7%
株主資本	29,399百万円	25,741百万円
株主資本利益率(ROE)	8.6%	6.8%
1株当たり株主資本	1,245.40円	1,090.67円
1株当たり当期純利益	100.96円	70.92円
減価償却費	822百万円	606百万円
設備投資費	1,081百万円	702百万円
研究開発費	1,751百万円	1,729百万円

業績推移



セグメント別売上構成比 (2005年度)



※各区分に属する主要な国は以下の通りとなります。
 アジア: 中国・台湾・韓国・シンガポール・マレーシア・
 フィリピン・タイ・インドネシア・ベトナム
 その他: 米国、ドイツ

環境会計

エスベックの2005年度環境会計の集計結果は以下の通りです。

集計範囲:(エスベック株式会社、エスベックエンジニアリング株式会社)
対象期間:平成17年4月1日～平成18年3月31日
単 位:(千)円

環境保全コスト					
分 類	主な取組の内容	2005年度投資額	2005年度費用額	2004年度投資額	2004年度費用額
(1) 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)		2,201	43,879	73,583	49,014
内 訳	①公害防止コスト	—	3,517	1,144	4,955
	②地球環境保全コスト	2,201	23,068	72,440	30,621
	③資源循環コスト	—	17,169	—	13,439
	生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)	—	—	—	—
(3) 管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	ISO14001運用経費	—	77,081	—	57,363
(4) 研究開発活動における環境保全コスト	環境配慮製品の開発	—	662,501	—	631,036
(5) 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	神戸R&Dセンターにおける森づくり・水辺づくり	—	33,068	45,306	34,619
(6) 環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)		—	—	—	—
合計		2,201	816,404	118,890	772,033

単 位:(千)円

項 目	内 容 等	2005年度実績	2004年度実績
当該期間の投資額の総額		372,719	505,352
当該期間の研究開発費の総額		1,729,547	1,933,106

単 位:(千)円

環境保全対策に伴う経済効果		
効果の内容		金 額
収益	リサイクルにより得られた収入額	3,828
費用節減	省エネルギーによる費用削減	3,900

環境保全効果			
効果の内容	環境保全効果を表す指標		
	指標の分類	指標の値	
事業活動に投入する資源に関する効果	電 力 の 使 用	2005年度実績	2004年度実績
	発生総量(万kWh)	842	816
	削減量(対前年比)(万kWh)	(26.0)	—
	原単位(万kWh/億円)	2.5	2.4
	原単位での削減率(%) (対前年比)	—	—
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	廃 棄 物 の 排 出	2005年度実績	2004年度実績
	発生総量(トン)	27.0	24.7
	削減量(対前年比)(トン)	(2.3)	—
	原単位(kg/億円)	81.4	72.2
	原単位での削減率(%) (対前年比)	—	—
	売上高(単純合算)(億円)	331.6	342.1

注1.()付きの値は増加分

算出根拠

値の名称	ページ	計算式・条件など
総物質投入量、鋼材投入量、部品投入量	36・37	購買部門の当該購入記録（数量）に対し単位重量を乗じ、総和を求めたもの。 梱包材、付属品などは含まず。
電気使用量	36・37	・電力会社への支払い伝票より算出。 ・1 (kWh) = 10,250 (kJ) で計算
ガス使用量	36・37	・ガス会社への支払い伝票より算出。 ・原油換算: 10,000 (m³) = 10.2 (kℓ) ・発熱量 (原油換算): 1 (kℓ) = 38,759,690 (kJ)
石油使用量	36・37	・危険有害化学物質取扱記録および購入伝票より算出。 ・原油換算 = 灯油量 × 0.96 ・発熱量 (原油換算): 1 (kℓ) = 37,209,302 (kJ)
総エネルギー使用量	36・37	・電気 + ガス + 石油 (灯油) - 太陽光発電量
温室効果ガス排出量	36・37	・温室効果ガス排出量 = 電力のCO ₂ 換算値 + ガスのCO ₂ 換算値 + 石油 (灯油) の換算値 - 太陽光発電量 ・電力のCO ₂ 換算: 1 (kWh) = 0.381 (kg-CO ₂) ・ガスのCO ₂ 換算: 1 (m³) = 2.15 (kg-CO ₂) ・石油のCO ₂ 換算: 1 (ℓ) = 2.53 (kg-CO ₂)
部品・製品総輸送量	36・37	・部品: 所定拠点間距離 × 定期トラック便の運行回数 × 部品積載量 (個数 × 単位重量) ・製品: 製品の販売記録より算出。生産拠点から顧客先都道府県庁所在地までの距離をナビソフトウエアを用い、高速道路優先により算出。
自動車 (部品・製品配送、営業車、サービスカー) のCO ₂ 排出	36・37	4tトラック実測燃費 (1,188km/250ℓ = 5.4km/ℓ)、10tトラック実測燃費 (1,188km/355ℓ = 3.3km/ℓ) を用い、製品総輸送距離に乘じ、燃料総量を算出。この量をCO ₂ 換算。 営業車・サービスカー燃料 (ガソリン、軽油) の給油伝票より全社の給油量を算出。 この量をCO ₂ 換算。軽油1 (ℓ) = 2.64 (kg-CO ₂)、ガソリン1 (ℓ) = 2.36 (kg-CO ₂)
廃棄物量、有用物量、有価物量、資源リサイクル量、熱リサイクル量、排出物量	36・37	排 出 物 事業所より排出される直接の用途を持たないもの。排出物 = 廃棄物 + 有用物 + 有価物
		廃 棄 物 (量) 事業所より出される廃棄物で、埋立または焼却処分されるもの。処分業者の処理方法の確認およびマニフェスト伝票より算出。
		有 用 物 (量) 事業所からの排出物のうち、再利用物、資源リサイクル物、熱リサイクル物などをいう。
		資源リサイクル (量) 排出物のうち、粉砕、化学処理などを施し再利用するもの (例: 古紙 → トイレットペーパー)
		熱リサイクル (量) 排出物を焼却し、その熱を利用するもの (例: ゴミ発電、地域の温水プール)
有 価 物	36・37	排出物のうち、処理費用、運搬費用を減じても有価として取り扱っていただけるもの (例: 鉄くず、アルミくず)
お客さま先での電力削減	32	電力削減を行った製品が販売されてお客さまがご使用になることにより、どれぐらい電力が削減されたか試算したもの。 電力削減量 = 代表機種の電力削減量 (W) × 販売台数 × 24時間 × 365日 × 稼働率 (60%) 各製品の電力削減値は、販売年より10年分を累積していく。
製品の省エネ	31	従来製品に対する新製品の消費電力量の差の比率。環境試験器の特性上、使用温湿度によって消費電力は大きく異なるため、その製品のもっとも多い使用条件により算出。
外部コミュニケーション件数	33	エスベックグループおよび各事業所において、ステークホルダーに対してコミュニケーションをとった回数の総和。複数のステークホルダーに同時に同一目的でコミュニケーションをとった場合は1件とカウントしている。

年表

- 1960 わが国で初めて環境試験器の開発に着手
- 1969 恒温恒湿器に複数の冷凍機を搭載し、省エネを実現
- 1974 無公害工業団地・長田野工業団地に福知山工場竣工
- 1985 省エネを基本設計思想とした本社ビルを建設
- 1986 環境試験技術センター、日本で初のIECQ独立試験所として認定
- 1992 代替フロンのプリント基板洗浄剤に転換完了
代替フロンの断熱材発泡に転換完了
- 1994 福知山工場が 省エネルギーの電気部門において近畿通商産業局長賞を受賞
- 1996 NEDOとの太陽光発電フィールドテストを開始
エスベックグループ全社環境基本方針を制定
福知山工場がISO14001認証取得
- 1998 公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」を設置
環境マネジメントレポート発行開始
- 2000 福知山工場が京都労働局長から「快適職場推進事業場」の認定を受ける
- 2001 鉛フリーはんだに変更したプリント基板の製造を開始
低沸点冷媒回収装置の開発
- 2003 エスベックグループ全社でのISO14001一括認証取得※¹
- 2005 CSRレポート2005発行

※1 対象事業所は27ページをご参照下さい。

- 1994年 福知山工場が省エネルギーの電気部門において近畿通産局長賞を受賞
- 2001年 福知山工場が京都府環境トップランナー表彰を受賞
環境経営度調査で製造部門14位の評価
エスベック環境マネジメントレポート2001が、環境レポート大賞 優秀賞を受賞
エスベック環境マネジメントレポート2001が、環境報告書賞 優良賞を受賞
- 2004年 フジサンケイグループ・日本工業新聞社主催 地球環境大賞 日本工業新聞社賞受賞
- 2005年 第3回日本環境経営大賞 環境経営優秀賞を受賞

事業所一覧

事業所

本 社

530-8550 大阪府大阪市北区天神橋 3-5-6
Tel : 06-6358-4741 Fax : 06-6358-5500

東京支社

108-6012 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟12階
Tel : 03-5783-8731 Fax : 03-5783-8737

東京R&Dセンター

136-0074 東京都江東区東砂 8-5-1
Tel : 03-5633-7291 Fax : 03-5633-7303

神戸R&Dセンター

651-1514 兵庫県神戸市北区鹿の子台南町 5-2-5
Tel : 078-951-0960 Fax : 078-951-0967

仙台営業所

981-3135 宮城県仙台市泉区八乙女中央 2-2-22
Tel : 022-218-1891 Fax : 022-218-1894

つくば営業所

305-0035 茨城県つくば市松代 1-11-10
Tel : 029-854-7805 Fax : 029-854-7785

さいたま営業所

330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 4-782-1
Tel : 048-643-1918 Fax : 048-645-1597

東京営業所

108-6012 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟12階
Tel : 03-5783-8732 Fax : 03-5783-8738

西東京営業所

186-0011 東京都国立市谷保 6049
Tel : 042-501-2571 Fax : 042-501-2573

松本営業所

390-0851 長野県松本市島内 4082-7
Tel : 0263-48-0401 Fax : 0263-48-0410

静岡営業所

422-8036 静岡県静岡市駿河区敷地 2-26-10
Tel : 054-237-8000 Fax : 054-238-3441

金沢営業所

920-8203 石川県金沢市鞍月3丁目115
Tel : 076-268-1891 Fax : 076-268-1893

名古屋事業所

465-0092 愛知県名古屋市中東区社台 3-81-2
Tel : 052-777-2551 Fax : 052-777-2575

大阪営業所

530-8550 大阪府大阪市北区天神橋3-5-6
Tel : 06-6358-4746 Fax : 06-6358-5575

広島営業所

731-0103 広島県広島市安佐南区緑井 1-12-25
Tel : 082-830-5211 Fax : 082-876-5050

福岡営業所

812-0006 福岡県福岡市博多区上牟田 1-28-16 コスモブレインビルE室
Tel : 092-471-0932 Fax : 092-474-3500

宇都宮テクノコンプレックス

321-3231 栃木県宇都宮市清原工業団地 23-1
Tel : 028-667-8730 Fax : 028-667-5803

福知山工場

620-0853 京都府福知山市長田野町 1-7
Tel : 0773-27-3131 Fax : 0773-27-1132

Europe Branch

Wiltruden Strasse 5, D-80805 Munich, Germany
Tel : (49)89-30765661
Fax : (49)89-30767573

エスベックグループ<国内>

エスベックエンジニアリング株式会社

572-0072 大阪府寝屋川市太閤東町 15-8
Tel : 072-834-1191 Fax : 072-834-7755

エスベック環境試験技術センター株式会社

530-8550 大阪府大阪市北区天神橋 3-5-6
Tel : 06-6135-3626 Fax : 06-6135-3627

エスベックテクノ株式会社

658-0053 兵庫県神戸市東灘区住吉宮町 5-10-18
Tel : 078-811-3211 Fax : 078-841-8329

エスベックICF株式会社

613-0023 京都府久世郡久御山町野村村東 102-1
Tel : 075-633-5315 Fax : 075-633-5385

エスベック関西株式会社

615-0046 京都府京都市右京区西院西満崎町 8
Tel : 075-315-1232 Fax : 075-311-6305

エスベック九州株式会社

802-0062 福岡県北九州市小倉北区片野新町 2-6-15
Tel : 093-941-1731 Fax : 093-921-2822

エスベックミック株式会社

480-0138 愛知県丹羽郡大口町大御堂 1-233-1
Tel : 0587-95-6369 Fax : 0587-95-4833

エスベックビジネスクリエイト株式会社

530-8550 大阪府大阪市北区天神橋 3-5-6
Tel : 06-6358-3229 Fax : 06-6358-9450

エスベックグループ<海外>

ESPEC NORTH AMERICA, INC.

4141 Central Parkway, Hudsonville, MI49426 U.S.A.
Tel : 1-616-896-6100 Fax : 1-616-896-6150

ESPEC EVALUATION & TEST SYSTEMS, INC.

1933 O'toole Ave., Suite A-107 Sun Jose, CA95131, U.S.A.
Tel : 1-408-433-2295 Fax : 1-408-433-2296

SHANGHAI ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT CORP.

166 Ha-mi Road, Shanghai 200335, China
Tel : 86-21-52186477 Fax : 86-21-62394953

GUANGZHOU ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT CO., Ltd.

Yongfa Avenue 6, Huadu-City, Guangdong-province 510808, China
Tel : 86-20-86881537 Fax : 86-20-86881530

ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT (SHANGHAI) CO., LTD.

Flr1, No.489 Pudian Road, You You Yanqiao Building, Pudong New Area, Shanghai, 200122, China
Tel : 86-21-58303322 Fax : 86-21-58661781

ESPEC TEST TECHNOLOGY (SHANGHAI) CO., LTD.

Room 106, Building 8, No.3000 Longdong Avenue, Pudong New Area, Shanghai 201203, China
Tel : 86-21-6879-8008 Fax : 86-21-6879-8088

ESPEC KOREA CORP.

36-20, Gwandai-Ri, Doonpo-Myun, Asan-City, Choongnam 336871, Korea
Tel : 82-41-532-1981 Fax : 82-41-532-1983

ESPEC (MALAYSIA) SDN. BHD.

No.10-1, Jalan Dagang SB 4/2, Taman Sungai Besi Indah, Off Jalan Sungai Besi, 43300 Seri Kembangan, Selangor Darul Ehsan Malaysia
Tel : 60-3-89451377 Fax : 60-3-89451287

アンケートにご協力ください

Q1 本レポートにてエスベックの社会面・環境面・経済面への取り組みについて、どのように感じられましたか。
(ひとつだけ○印をつけてください)
1.かなり評価できる 2.まあ評価できる 3.あまり評価できない 4.まったく評価できない
上記のように感じられたのは、どのような理由からですか。具体的にお聞かせください。

[

]

Q2 本レポートの内容のうち、特に印象に残ったこと・参考になったと思われる項目はございますか。
(いくつでも○印をつけてください)

エスベックの概要

トップメッセージ

Gカンパニープラン

カンパニー インフォメーション

経営・マネジメント

1. 良き社会の一員として、エスベックが誓うもの
2. ステークホルダーから信頼されるために
3. 持続的成長・発展に向けて

社会的側面

1. 社会に役立つエスベック
2. 従業員への取り組み
3. 株主さまへの取り組み
4. お客さまへの取り組み
5. 取引先さまへの取り組み
6. 快適な職場環境づくり
7. 社会貢献活動

環境的側面

- 地球環境を見据えた第三次環境中期計画を策定
1. 環境マネジメントシステム
 2. 環境パフォーマンス

経済的側面

- エスベックグループ体制図
営業概況・財務ハイライト
業績推移
セグメント別売上構成比(2005年度)
環境会計

具体的にどのようなことが印象に残ったかお聞かせください。

[

]

Q3 本レポートの内容で、もっと詳しく知りたいと思われた項目がありましたか。
上記**Q2**の項目からいくつでも選んでお聞かせください。

[

]

Q4 社会面・環境面・経済面への取り組みについて、エスベックになにを期待されますか。具体的にお聞かせください。

[

]

Q5 当社から回答を必要とする内容がございましたら、ご記入ください。

[

]

回答手段: ☐ 郵送

☐ 電話 (電話番号 — —)

☐ FAX (FAX番号 — —)

☐ Eメール (メールアドレス — —)

Q6 あなたが本レポートをお知りになったきっかけをお聞かせください。
(○印をつけてください)

1. エスベックグループの営業・サービス担当
2. エスベックグループの代理店・販売店
3. エスベック株式会社のホームページ
4. 環境管理セミナーなどで聞いた
5. 展示会
6. エスベック技術情報誌
7. その他 (具体的に:)

■アンケートにご回答いただき、誠にありがとうございました。 差しつかえなければ、あなたご自身についてお聞かせください。

お名前	(フリガナ)	性別	1.男性 2.女性	ご年齢	歳
ご住所	〒				
☐ 企業・環境担当 ☐ 企業・一般 ☐ 官公庁 ☐ 自然保護団体・推進者 ☐ 一般消費者 ☐ 金融・証券会社 ☐ マスコミ・出版 ☐ 大学・学校等 ☐ 弊社グループの株主 ☐ 地域住民 ☐ その他 ()					
ご職業 勤務先	部署・ 役職名		エスベック 製品のご利用	1.使用している 2.使用していない	

個人情報の取扱いについて

当アンケートを通じ収集した情報につきましては、弊社CSRの取り組み向上、ならびに、お問合せへの対応の目的に限り使用させていただきます。

FAX/06-6358-5500 エスベック株式会社 総務部・環境管理部 行

CSRレポートの対象範囲

当CSRレポートは、エスベックグループのお客さまをはじめとする多くのステークホルダーのみなさまに対し、エスベックの社会的側面・環境的側面および経済的側面の各パフォーマンスに関する情報の開示を目的としています。ESPEC CSRレポートは、毎年6月末（年1回）に発行します。

1. 準拠したガイドラインなど

- ・ 環境省-環境報告書ガイドライン（2003年版）
- ・ 環境省-事業者の環境パフォーマンス指標
- ・ GRI発行「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」

2. 対象年度

主に2005年度（2005年4月～2006年3月）の期間を対象とし、過去より継続して実施してきた内容および直近のできごとについても時期を記述した上で掲載しています。

3. 事業の範囲

事業活動全般と製品・サービスにわたる社会的側面、環境的側面、経済的側面について記述します。また環境保全・改善事業についても取り組んでいますので、その内容についても掲載します。

4. 事業の範囲

国内エスベックグループの主な事業所の活動結果を集計しています。

エスベック 環境ポスターコンテスト

エスベックでは1997年よりエスベック環境強化週間を設け、社員の啓発活動をおこなっております。2005年度より、その一環として環境ポスターコンテストを実施。社員はもとより取引先の方々やそのご家族にもご応募いただいております。

当CSRレポートでは、各章のトップページに、2005年度に実施しました環境ポスターコンテストの入賞作品を使用しています。

編集後記

エスベックグループのCSRレポートとして第2号にあたる、「ESPEC CSRレポート2006」はいかがだったでしょうか？
このレポートも「エスベックの森」のようにどんどん成長させたいと思います。
そのためにもみなさまからのご指摘、ご意見をお待ちしております。

このレポートに関するご意見、ご感想、ご質問などにつきましては、下記までご連絡願います。

エスベック株式会社 総務部・環境管理部

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6 電話:06-6358-4743 FAX:06-6358-5500

毎年6月発行

2006.06 第1刷 1000
2006.08 第2刷 5000



古紙配合率100%再生紙を使用

■本報告書はリサイクル紙を使用しています。

エスペック株式会社

530-8550 大阪市北区天神橋 3-5-6
Tel:06-6358-4741 Fax:06-6358-5500